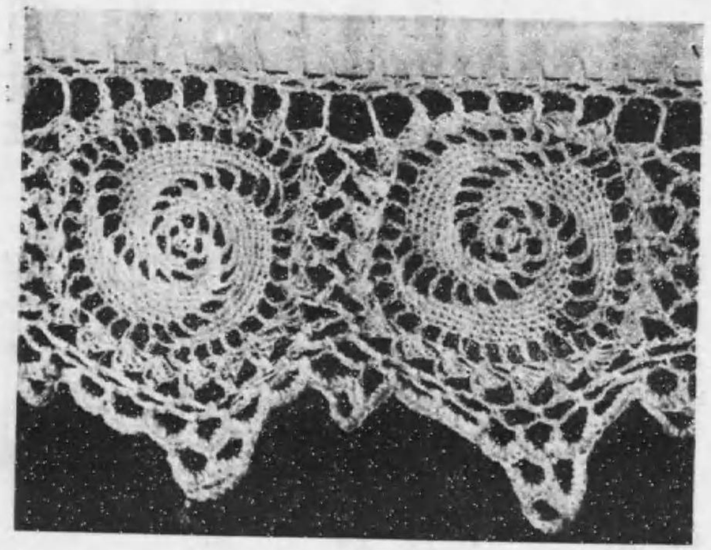
めから四つ編んで帽子編が七つになりましたら鎖を四つ拵へて次に編み移つて同様に一段編む、かくする時は鎖はいつも四つに帽子編が一段に一ヶ所に二つ宛増て行くのであります、これを繰り返して十段編みましたら次は鎖を六つ拵へて下の目を二つ飛ばして長編を一つ又鎖三つを拵へて三つ目に長編を一つ編む、かくして一段編み廻りまして次は鎖を四つ拵へて其元の目に長編を三つ編み入れ、次の目を三つ飛ばして帽子編で止める、この方法を繰り返して一段編んで其長編三つの處が二十四出來る様に編んで置て下さ

巴



い、以上の編方で寫眞の様な巴を二十八拵へて、玉編の鎖で巴と巴との間を五ヶ所編みつないで置く、而してそれを罠にして其一方へ次の方法で飾を編み付けます。

飾編——新たに巴の周圍(まわり)の終りの長編三つの上の處に糸を付け、鎖を五つ拵へて次の長編の處に帽子編で止め、又鎖を五つ拵へて次の長編三つの上に止める、この方法を繰り返して一段編みましたら次は鎖を五つ拵へて前段の五つの鎖の中に止めると云ふ様にする、かくして二段編んだら袖口(飾編其三)同様の飾編を周圍(まわり)に編み付けて置く。

それから其一方は布地に編み付ける方ですから前同様三つの長編の上の處に糸を付け鎖を五つ拵へて次の長編三つの上の處に長編を一つ編み入れ、又鎖を三つ拵へて次の長編の上に長編を一つ編むと云ふ様にして一段編み廻つたら、次の段では鎖を一つ拵へて布の方に帽子編を一つ編み付け、又鎖を一つ拵へて今編んで行くものゝ前段の長編の間の鎖の處に帽子編で止め、又鎖を一つ拵へて布の方に編み付ける、

下着裾飾

終了の寫眞

此布の方に編み付けるのは前の長編と長編の間の三つの鎖の處と同樣の間隔(あいだ)を置いて帽子編をして編んで行きます、かくして全縁を編み廻つたら飾編を終るのて御座います。

21　ダリヤ

器具材料準備

編糸　カタン糸三十番手少々。

編針　金屬製角柄付レース用鈎針。

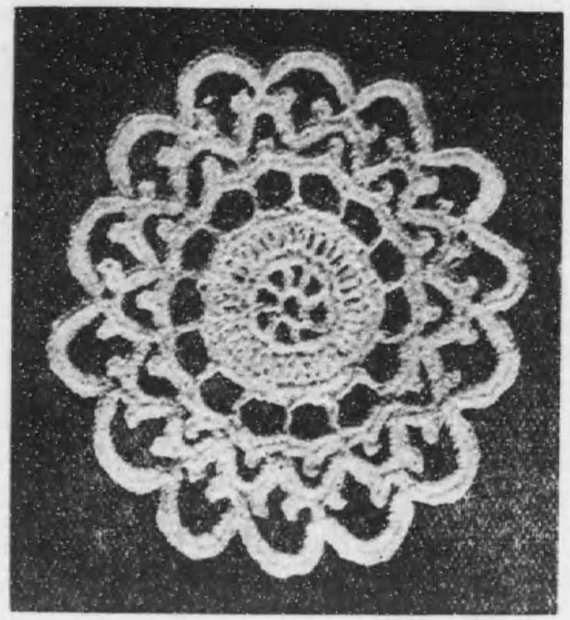
應用編法　帽子編。長編。

ダリヤの拵方

鎖を五つ拵へて丸くして初めの目に帽子編で止め、又鎖を六つ拵へて初めの罠の中に長編を一つ編み入れ、鎖を二つ拵へて又初めの罠の中に長編を一つ編み入れると云ふ樣にする、かくして其長編が七つになりましたら鎖を三つ拵へて初めの鎖の下から四つ目に帽子編で止めて下さい。二段目は其鎖の處に帽子編を三つ宛編み入れて一回編み廻り。三段目は其帽子編の目に全部長編を編み入れて一段編む。此段は

長編の六つ目に二つ編み入れて全部で二十八になる様に編んで行く。四段目は其長編の目に帽子編を二つ宛編み入れて五十六になる様に編み。五段目は初め鎖を八つ拵へて前段の帽子編の目を三つ飛ばして四つ目に長編を一つ編み入れる、而して鎖を四つ拵へて下の目を三つ飛ばして四つ目に長編を一つ編み入れると云ふ様にする、かくして編んで行きますと其長編の處が十四になります、終りは鎖を四つ拵へて初めの八つの鎖の下から四つ目に帽子編で止めて下さい。六段目は五段目の鎖の處に針を通し、帽子編を三つ、して鎖

ダリヤ



終了の寫眞

を三つ拵へて前の帽子編の上部に帽子編で止めると一つの玉様のものが出來ます、次も又前同様に帽子編を三つ入れますと其處は終りとなります、次も又同様に又次もと云ふ様に漸次に此段を編み廻ります。七段目は鎖を七つ拵へて前々段の長編の上の目に帽子編で止め、又鎖を七つ拵へて次へ止めると云ふ様にしてこの一段を編んで參ります、次は其鎖の中に帽子編を三つして鎖三つの玉を拵へ、又帽子編を三つ編んで玉を一つ拵へて帽子編を三つ編み入れる、これで一ヶ所が出來ましたから同様の方法で一段編み廻つて置く、次は鎖を九つ拵へて次の前段の玉と玉との間の處に帽子編で止めて又鎖を九つ拵へて次に止める、かくして一回編み廻りましたら次は其鎖の中に帽子編を十三編み入れて一回編みますと寫眞の様な花形が得られます、この花形は種々に用途の擴いもので御座いますから、叮嚀に編むことに練達して頂きたいと存じます。

22　花九曜

器具材料準備

編糸　カタン糸三十番手少々。

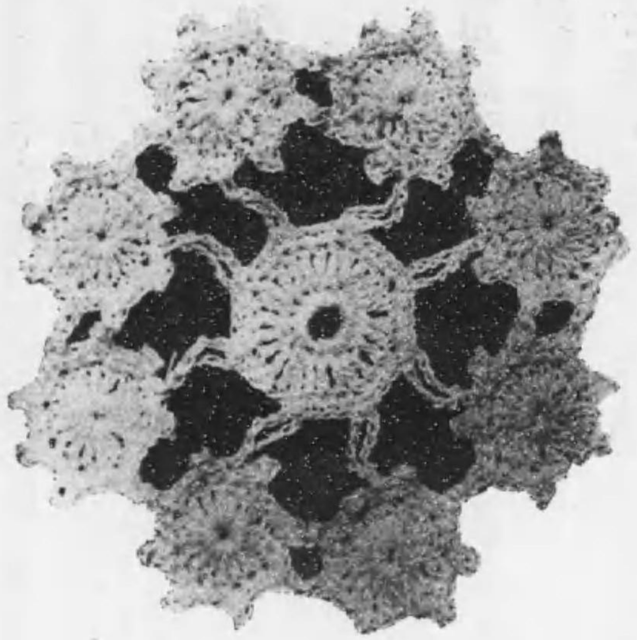
編針　金屬製角柄付レース用鈎針。

應用編法　帽子編。長編。

花九曜の拵方

外廻りの花から編む——先づ鎖を五つ拵へて丸くして又鎖を三つ拵へて其罠の中へ長編を二十四編み入れて止める。次の段は帽子編を三つ編んで鎖を三つ拵へて其帽子編の上部の二本の糸に帽子編で止め、又帽子編を三つして鎖を三つ拵へて前同樣に編む、この方法を繰り返して編んで行きますと其問圍(まわり)に八つの玉が付きます、これで一つの花形の終了となります、同樣の編方で寫眞の樣に八つの花形を繋(つな)ぎ合せて丸くして下さい。

菊花九曜



終了の寫眞

中央の花を編む——これは鎖を七つ拵へて一つは帽子編を二十四編み、次の長編は前の花形の場合と同樣に編んで參るのでありますが、其終りの段で今迄に三つ鎖を拵へました處を今度は五つ拵へて外の花に帽子編で止め、又鎖を五つ拵へて又中央の花に返して編むと云ふ樣に致します、これを繰り返して編んで行つて其八つの部分(ぶぶん)を編み終りましたら糸を切つて置く、

之れ等は何れも應用の範圍(はんい)も廣く服の飾などには尤も相應(ふさわ)しいもので御座いますから、凡て何に限らず手際よく實地に活用して頂きたいと思ふのであります。

23　三葉葵

器具材料準備

編　糸　カタン糸三十番手少々。

編　針　金屬製角柄付レース用鈎針。

應用編法

帽子編。長編。

三葉葵の拵方

鎖を十五拵へて丸くして帽子編で止め、又鎖を七つ拵へて前の十五の鎖の初から五つ目の處に帽子編で止め、又鎖を七つ拵へて同じく前の止めた處から五つ目に帽子編で止めます、かくして編んで行きますと其鎖七つの處が一廻りに三つ出來ます、

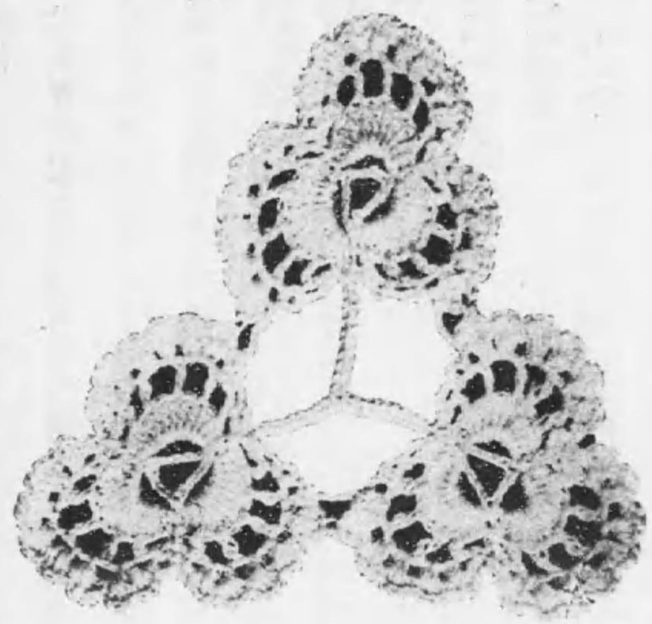
次は其七つの鎖の中に長編を十四編み入れて前段の帽子編で止めた目に又帽子編で止め、又次の七つの鎖の中に同じく長編を十四編み入れて參ります、この方法を繰り返して三ヶ所共編みましたら、次は鎖を三つ拵へて前段の長編の目を一つ飛ばして次の目に長編を一つ編み、又鎖を三つ拵へて前同樣に編む、かくして其の十四の長編の上に長編が五つ出來ましたら前段に帽子編で止めた處に又帽子編で止め、次も同樣に編んで此の段を終る。次の段は鎖を五つ拵へて長編の間の鎖の處に止め、又鎖を五つ拵へて次へ止めると云ふ樣に致します、これを繰り返し〳〵て一段編みますと一つの葉の編み終りとなるので御座います。

第二の葉——それから第二の葉を編むのでありますが、それは鎖を三十拵へて其針のある處から十五目の處へ帽子編で止め、殘りの十五目は寫眞の中央部にある繋ぎになつて居る處になるのであります、今十五で罷にした處を第一の葉の塲合同樣に編んで出來上りましたら、第一から第二に移りました時の十五の鎖に針を掛

けて帽子編を十編み、其處から第三の葉に編み移るのであります。

第三の葉——鎖を二十三拵へて第二の場合同樣に其針の處から十五目の處に帽子編で止めて罠を作る、それから第一同樣にして編んで行つて全部出來ましたら、前に殘つて居ります七つの鎖に帽子編を十編み入れ、其針を第一の葉の下に殘してある七つの鎖の處に通して帽子編を十編み、第一の葉の殘りの處に帽子編で止めて一旦糸を切つて

三葉葵



終了の寫眞

置く。

新たに其外側に糸を付けて鎖五つの止めた處に長編を三つ編み入れ、次の五つの鎖の中に帽子編で止め、又次の前段に止めた處に長編を三つ編み入れる、かくして三葉共寫眞を參照して御編下さい。

24　九曜菱

器具材料準備

編糸　カタン糸三十番手少々。

編針　金屬製角柄付レース用鈎針。

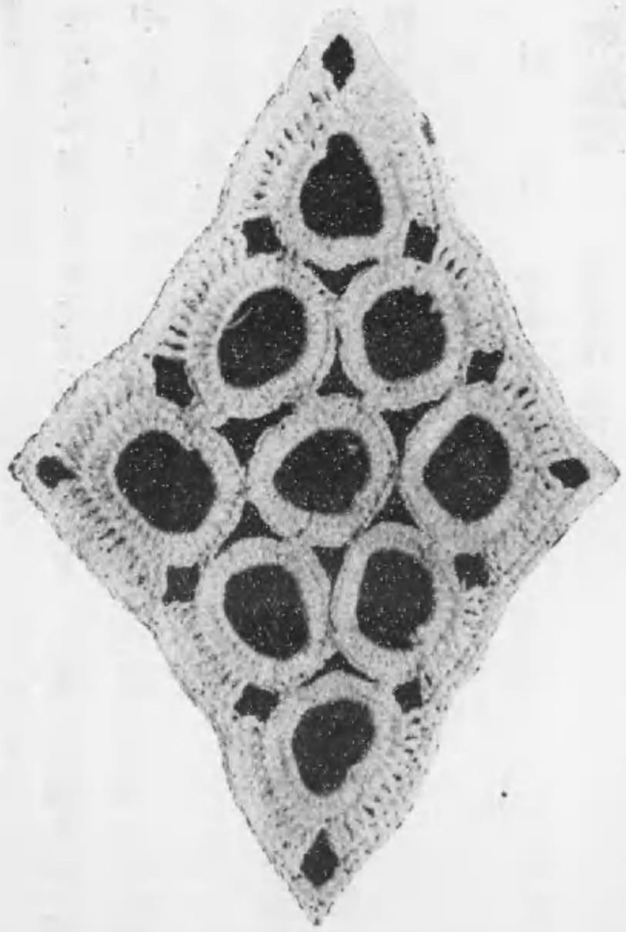
應用編法　帽子編。長編。

九曜菱の拵方

中央の輪から編む——先づ鎖を二十拵へて其中に眞になるべき糸を入れながら帽子

編を三十編んで一度糸を切る。

外の輪——次は外の一つの輪を編みます、之も前と同じ様に鎖を三十拵へて三十の帽子編を編みながら前の中央の輪に其の一部を編み付ける、それから次の輪を編むときは前に編みました輪の中央のものに編付けま



九曜菱

終了の寫眞

した處から七目手前の處に付けて、七目編んで中央の分の前に付けた處から五つ目に又帽子編て編み付けて行きます、かくして初めの中央の輪の周圍に順々に六つ編み付け、尙ほ其左右に寫眞の様に二つの輪を編み付けて置く。

それから繋ぎ合せた上部の中央の目を又長編で九目編み進んで次の輪に飛んで又九目編んで行く、而して角の處は鎖を五つ拵へて次に移り編む様にする、かくして輪の周圍に長編の一段が出來ましたら尙一度其外側の段を帽子編を一目に一つ宛入れて編み、角の鎖の處になつたら帽子編を三つ編んで鎖を二つ拵へ、又帽子編を三つ編んで次へ移ると云ふ様にして一廻りしたら終了となるので御座います。

25　コスモス

器具材料準備

編糸　カタン糸三十番手少々。

眞　糸　五尺。

編　針　金屬製角柄付レース用鈎針。

應用編法

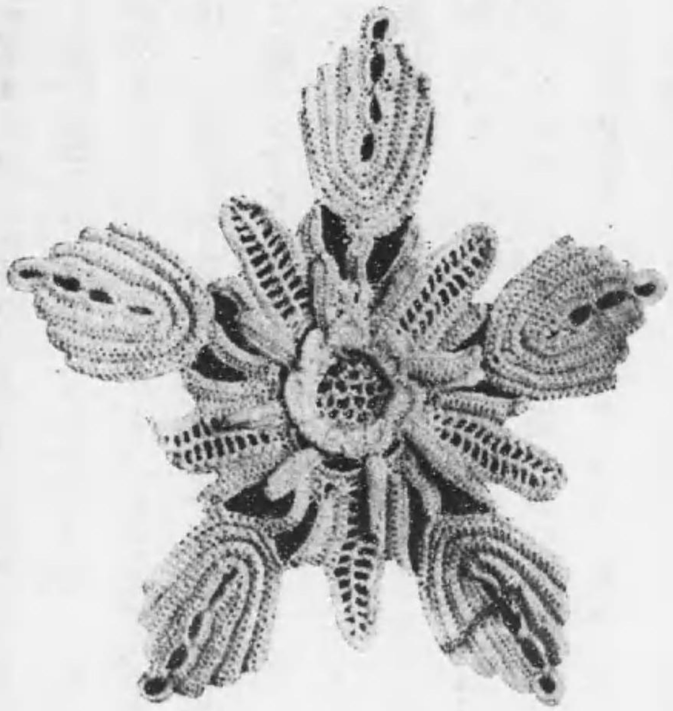
帽子編。長編。鎧編。

コスモスの拵方

中央から編む——先づ鎖を十三拵へて其針の處から五つ目に帽子編て止め、又鎖を三つ拵へて前の鎖の三つ目に止める樣に致します、かくして端になりましたら鎖を三つ拵へて持ち替へて前段の鎖の中に止め、又鎖を三つ拵へて編んで參ります、かくして四段編み續けましたら其の周圍を帽子編にする、それは一つの鎖の處に帽子編を三つ編み入れて釣れぬ樣に氣を付けて一回編み廻ります、次は鎖を五つ拵へて前の帽子編の三つ目に帽子編て止める、この方法て其周圍に七つ編み付けます、次は其五つの鎖の中に長編を七つ宛編み入れて前に止めた處に又止めて置く、かくして一段編みましたら次は鎖を六つ拵へて前段の裏の處に止め、又鎖を六つ拵へて同じく裏の部分に止める、これを繰り返し／＼て其の周圍に不規則に八つか九つ編み着けます、それから眞に入るべき糸を持ち添へて其の眞糸に針を掛けて帽子編ゑ十三拵へ、其處から眞糸を曲げて其十三の目に眞糸を編み込みながら、帽子編を二段目に編みますと眞糸の元の處になりますから、前段の鎖の中に帽子編を七つ編みますと、其十三の帽子編の處は飛び出した形となりますが、この方法を繰り返して其周圍に九つ同樣のものを編み付けます、次は又其裏面に鎖を七つ拵へて止めたものを十拵へて一回編み廻る、次は其鎖の中に帽子編を七つ宛編み入れて一段編み、次の段からは前に十三の帽子編で編みました樣な編方で十八のものを一つ編み、次は十三次は十八と云ふ樣に編み、次は十八の目の處を上まで帽子編で編んで行く、それから眞糸に針を掛けて帽子編を十拵へ、其處から針を返して眞糸は其處に放し置き、次の帽子編の目を鎖一つ下目を一つ飛ばして次へ長編を一つ編み入れる、これ

を繰り返して一段編んで行くのであります、而して其長編が十二になりましたら元の處になりますから帽子編で止めて前同様で一段編む、端は前に眞糸を放し置いた處に帽子編で止め、又前の鎖の處と長編の處の全部に眞糸を入れながら、帽子編で一段編むと一ヶ所の出來上りとなります、かくして順々に五ヶ所を編み終つたら一旦糸を切つて下さい。

コスモス



終了の寫眞

次は鎖を二十三拵へて針のある處から八つ目に帽子編で止め、次からは鎖を五つ拵へては前の鎖の五つ目に止める、かくして其鎖の終りとなりましたら其五つの鎖の處に眞糸を付けて帽子編で一ヶ所に七つ宛編み入れて一廻り編む、二段目は鎧編になる樣にして端から一つ手前の止めた處になりましたら其處から後に返して同じく鎧編になる樣にして下の角の處は帽子編を三つ宛編み入れ、漸次編み進んで其段數が六段出來たら七段目は寫眞の樣に前編んだものに編み着けるので御座います。同樣の方法で周圍に五ヶ所編み着けると終了となります、この編方は服などの飾編として尤も面白く巧に編みつないで參りますとそれは〳〵立派なものになるので御座います。

26　枕カバー

器具材料準備

編糸　カタン糸三十番手少々。

枕　カ　バ　ー

終了の寫眞

布　地　キャラコ幅一尺二寸長一尺五寸。

編　針　金屬製角柄付レース用鈎針。

應用編法　帽子編。長編。

枕カバーの拵方

鎖を七十拵へて編み始めます、これは圖案を挿入れる迄もなく終了の寫眞を見本代りにして御編みになることが出來ると思ひますから目數を數へながら模樣の部分を編んで行つて牡丹樣の模樣が完全に三つ現はれ出ましたら、それからは初めに準備して置きました布地に編み付けて其兩端を搾り止めると美しい枕カバーが終了ので御座います。

27　敷　物　（其一）

器具材料準備

編　糸　カタン糸三十番手二繰。

編　針　金屬製角柄付レース用鈎針。

應用編法　帽子編。長編。二重搦長編。三重搦長編。松編。

敷物（其一）の拵方

中から編む——初めは鎖を七つ拵へて丸く罠にして帽子編で止め、其罠の中に帽子編を十二編み入れて一段を編む、二段目は鎖を八つ拵へて次の目に三重搦の長編を一つ編み入れ、又鎖を三つ拵へて次の目に長編を編み入れる、かくして一回編み廻りますと其周圍に三重搦の長編が十二出來ますから、それを丸く止めて次は其三重

搦の長編の間の鎖の處に帽子編を四つ編み入れて一段編み、次は鎖を五つ拵へて前段の帽子編の四つ目に帽子編で止め、又鎖を五つ拵へて四つ目に止めると云ふ樣にする、この方法を繰り返して編んで行つたら次は其鎖の中に長編を七つ編み入れ、前段に帽子編で止めた處に又帽子編て止める、かくして編んで參りますと花瓣樣のものが十二出來ます、次は其裏側から鎖を六つ拵へて第二輯中の飾編の薔薇の花の場合と同樣にして次の帽子編の處に止める、この方法を繰り返し〳〵て一回編み廻りましたら、次は其鎖の中に二重搦の長編を七つ宛編み入れて一段編みます、次は又二重搦の長編を一目編んで鎖を三つ拵へて又一目次に三重搦の長編を一つ編むと云ふ樣にする、かくして一段編み廻つたら其鎖の處に帽子編を三つ編み入れて一段編む。

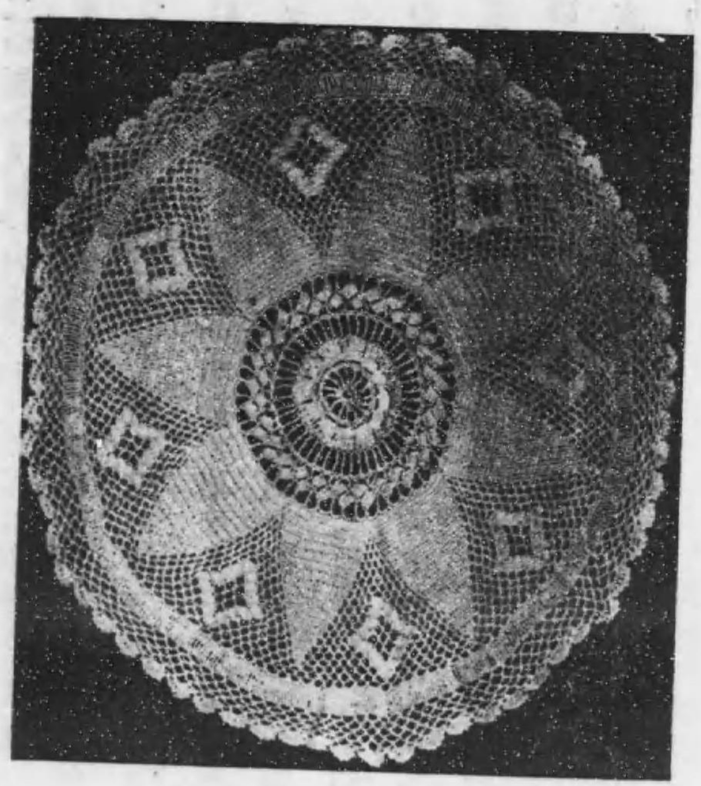
次の段は少し面倒（めんどう）な編方で御座いますからよく其說明を辿（たど）つて注意（ちうい）しながら御編み下さい、それは先づ鎖を十拵へて其針を後（あと）に返して五つ目の鎖に針を通して長編

を二つ編み入れ、又次の目も同樣に長編を二つ編み入れて一目飛ばして次の目に長編を二つ編み入れる、又次の目に二つ編み入れて前段の帽子編の目を二つ飛ばして三つ目に長編を一つ編んで鎖を四つ拵へて同じく三つ目に止めると云ふ樣にする、これで一ヶ所の飛び出た部分が出來ました、それから又鎖を三つ拵へて前に一つ長編をした處へ帽子編で止め、又鎖を四つ拵へて長編四つと四つの間の處に帽子編で止め、又鎖を三つ拵へて持ち替へて前段の三つの鎖の中に長編を四つ編み入れ、又次の三つの鎖の處に長編を四つ編み入れて以前からの分の帽子編の目を二つ飛ばして長編を一つ編み入れる、この方法を繰り返して一段編みますと、次の段は其の長編の上の角の處は帽子編とし、鎖を五つ拵へて前段の長編と長編との谷合の處は、二重搦の長編を一つ編むと云ふ樣にして一段編んで行くと中央部の編み方の終りとなります。

外の編方——これからは外の編方となりまして前段の鎖五つの處に帽子編を五つ

宛編み入れて一段編む。二段目は其全部を長編で編で行く。三段目は周圍を八つに割つて置いて其間の處は鎖を五つ拵へて下の目を飛ばさずに次の目から其八分の一を編んで行きます、かくして順々に編んで三段目を終つたら。四段目からは其長編を兩端で一目宛減らし又間の鎖五つの處が一つ增へて行くと云ふ樣に致します、こ

敷物（其一）



終了の寫眞

の方法を繰り返し〳〵て九段編み。十段目からは其鎖編の中央に第五輯中にある電燈カバーの場合に編み入れた模樣を編み込みながら長編の處はいつも兩端（りやうはし）を一つ減して編み、其全部が減滅（なくな）りましたら次は鎖五つ斗りで二段編み、次は其五つの鎖の處へは帽子編を五つ宛編み入れて一段編み、次は三重搦の長編を一段編み、次は鎖を五つ拵へて前段の目を三つ飛ばして帽子編で止めると云ふ樣にして下さい、かくして一段編んだら次からは鎖五つの編方で四段編み續け、五段目は長編六つの飾松編で一廻り編むと全部の終了となるので御座います。

28　敷物（其二）

器具材料準備

編糸　カタン糸三十番手半繰。

編針　金屬製角柄付レース用鈎針。

應用編法　捻桔梗編。帽子編。長編。

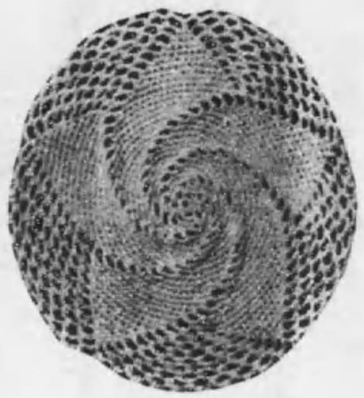
捻桔梗編の編方

捻桔梗（ねぢきゝやう）の編方と申ますのは前に述べて置きました巴形の編出方と同樣の方法で出來て居るのでありますが、この桔梗形は五つの捻（たゞ）から出來て居るのであります、これで初めは鎖を五つ拵へて罠にして又鎖を五つ拵へて其罠の中に帽子編で止め、又鎖を五つ拵へて其の罠の中に止めて參ります、而して巴の時と同樣に編んで十二段編みましたら、次の段からは其帽子編の處の終りの目を一目殘して鎖を三つ拵へて前段の三つの鎖の處に帽子編で止め、又鎖を三つ拵へて次の帽子編の處の手前の目を一目飛ばして次から編んで行きます、此編方によつて順々に編みつゞけて參りますと、帽子編は一段に二目宛減ることになり、鎖三つの處は一つ

宛增へて參りますから十二段目には帽子編が一つとなります、次は鎖を三つ拵へて全部を編み廻り、其次の段は長編の上部を拔かずに四つ編んで一時に拔き出し、鎖を四つ拵へて次に移つて又前同樣長編の上部を拔かないものを編むと云ふ樣に致します、この方法を繰り返し編んで行つて次は又鎖四つ斗りて一回編み廻つて糸を切る、これで一つの捻桔梗を編み終ることになります。

寫眞參照。

捻桔梗編



敷物（其二）の拵方

中央部から編む——前述の方法で捻桔梗編が出來たら鎖を九つ拵へて次の前段の鎖

五つの中に針を通して二重搦の長編を一つ編み、又鎖を五つ拵へて次の鎖の中に二重搦の長編を一つ編み入れると云ふ様にして一段編む。次は帽子編を其鎖の處に六つ宛編み入れて一段編み廻り、次は鎖を三つ拵へて下の目を一つ飛ばして長編を一つ編み、又鎖を三つ拵へて下の目を一つ飛ばして長編を一つ編む、かくして編み廻つたら其上を帽子編で二段編んで一旦糸を切つて置く。

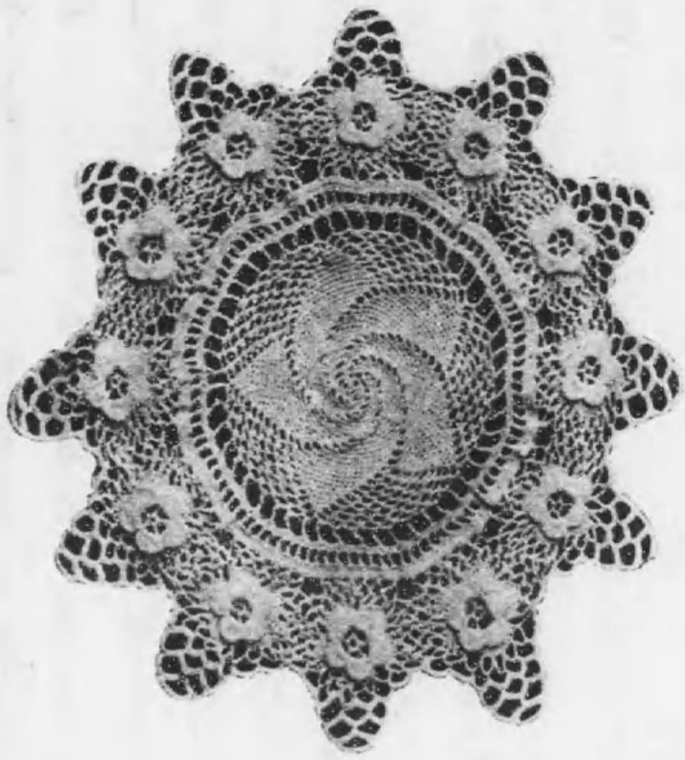
花飾——花飾（はなかざり）を編むには鎖を五つ拵へて丸くして又鎖を八つ拵へて其罠の中に長編を一つ編み、又鎖を四つ拵へて其の罠の中に長編を一つ編み入れて其長編が四つになりましたら、鎖を四つ拵へて前の八つの鎖の下から四つ目に帽子編で止めて一段の終りとなります。

二段目は其鎖の中に長編を七つ編み入れて前段の長編の上に帽子編で止め、又次の鎖の中に長編を七つ編み入れると云ふ様にしてこの一段を編んで行く。

それからは第二輯中飾編の中にある薔薇飾の場合と同様に鎖を五つ拵へて裏側から止めて又鎖を五つ拵へて裏側から止めると云ふ様にする、この方法を繰り返し〳〵編んで五つ出來たら、又其鎖の中に長編を九つ編み入れて前の鎖を止めた處に帽子編で止め、又次の鎖の中に長編を九つ編み入れる、この方法を繰り返し〳〵て一段編んだら、次は鎖を五つ拵へて其花形の瓣、樣のもの丶上を二目飛ばして帽子編で止め、又鎖を五つ拵へて前段の目を二目飛ばして帽子編で止める、その編方を繰り返して一段編む。次の段は其鎖の中央に又鎖を五つ拵へて其次の中央に止めて行く、かくして其の瓣樣のもの丶外側を三ヶ所編みましたら、次からは以前に編んで置いた中央の捻桔梗に編み付けます、其方法は度々前例のある編方で御座いますが、鎖を三つ拵へて中央部の外側の目に帽子編で止め、又鎖を三つ拵へていま編んで居る花形に止め、又鎖を三つ拵へて中央部の前に止めた處から四つ目に帽子編で止めると云ふ樣に致します、かくして四ヶ所止めまして花の方丈で編み初めの處になりましたら糸を切る。次からも同樣の方法で御編み下さいまして、以前の花形と中央

部の兩方へ止めて參るのでありますが、この方法も度々あることで御座いますから寫眞を參照して御編下さる樣に願つて置きませう、それから全部に花形が付きましたら今度は外飾りを編むのでありますが、これも本輯の初めに多數の例を引用して御座いますから、其飾編の中から適當なものを撰んで編み付けて下さい。

敷物（其二）



終了の寫眞

29　敷物（其三）（長三尺幅一尺）

器具材料準備

編糸　カタン糸二十番手二繰。

編針　金屬製角柄付レース用鈎針。

應用編法　帽子編。長編。花菱編。二重七寶編。松編。

敷物（其三）の拵方

中央から編む——この敷物は中央部から編むので御座います、それは鎖を三百五十拵へて其針を後に返して針のある目から八つ目に長編を一つ編み入れ、鎖を二つ拵へて前の鎖の目を二つ飛ばして三つ目に長編を一つ編むと云ふ樣にする、かくして其鎖を終る迄編んで行つて端になりましたら、終りの目には鎖二つ長編一つ又鎖二つと云ふ樣に其長編の數が七つになるまで編んで鎖の向ふ側に編み廻り、前同樣に

編んで端になつたら同じく長編で前同様にして七つ編んで置くと一段の終りとなります。

二段目は鎖を二十四編んで持ち替へ、其鎖の下から十六目の處に長編を一つ編み、鎖を二つ拵へて前の鎖を二つ飛ばして三つ目に長編を一つ編み、又鎖を二つ拵へて前の鎖を全部掬つて長編を十六編み入れ、前段の次の鎖二つの處に帽子編で止めます、この場合申ます段數と云ふのは少々面倒で御座いますが、それはこの二段目の内の一つの段を編み終つたと申のでありまして、普通云ふ處の段數とは違つて居ります、即ち一つの段の中にある段目を申すのであると云ふことを申添へて置きます。

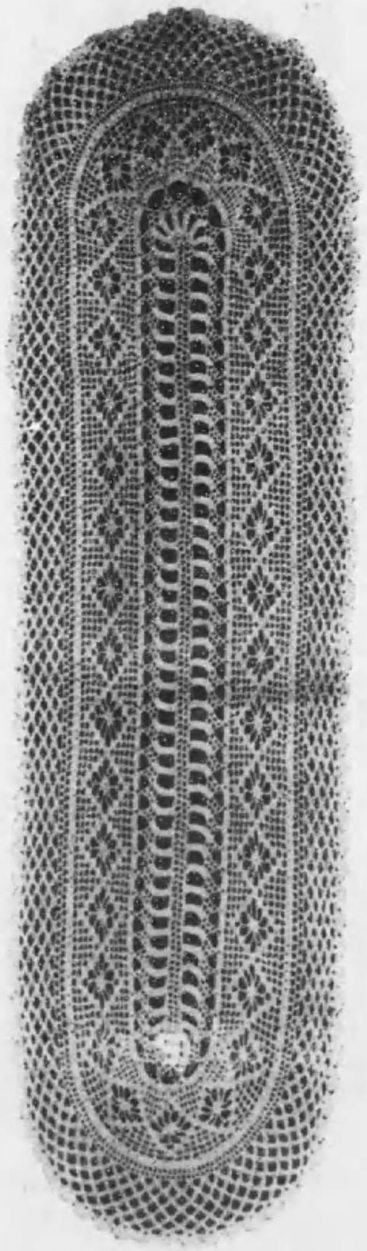
以上によりまして一つの段が出來ましたら、又鎖を五つ拵へて前の段の二つの鎖の處を一つ飛ばして次の處に帽子編で止め、鎖を十拵へて前段の長編十目の處に長編を一つ編み入れ、又鎖を二つ拵へて前段の長編の三つ目に長編を一つ編み入れ、又鎖を二つ拵へて前段の長編の終りの目に長編を一つ編む、それから、持ち替へて鎖

を五つ拵へて前の長編の間の二つの鎖の處に長編を一つ編み入れ、又鎖を二つ拵へて次の長編の間の處に長編を一つ編み、又鎖を二つ拵へて前の十の鎖の處に長編を十六編み入れます、これで二段目の二つの段が出來ました、この方法を繰り返し繰り返し編んで其周圍を編み廻りますと完全な二段目が出來るのでありますから、其處で一旦糸を切つて置く。

三段目は二段目の端の飛び出た處に糸を付けて帽子編で止め、鎖を七つ拵へて次の飛び出て居る處に帽子編で止めるのですが、其兩角の處は鎖を十にして一回編み廻ります、次は其七つの鎖の中に長編を七つ編み入れて一回編み廻るのでありますが、これも矢張り角の處は長編を十二編み入れて下さい、これで三段目の編み終りとなるのであります。

四段目は其周圍を次の方法によつて編み廻る、即ち鎖を二つ拵へて前段の長編の三つ目に長編を一つ編んで又鎖を二つ拵へて三つ目に長編を一つ編むと云ふ様にす

敷　物（其三）



終了の寫眞

る、かくして編んで行つて兩角の處は前段の目を一つ飛ばして長編をすることを六十目編んだら次からは普通で編んで參ります、かくして此の段を編み終つたら、次からは其全部に花菱編を編み、次の一段は鎖二つ長編一つの方法で編み廻り、次は其の前段の鎖二つの處に長編を二つ宛編み入れて行つて、兩角の處へは二つの鎖の處に長編を四つ宛編み入れて一段編み廻る、次は鎖二つ長編一つの方法で二段編み

續けますが、兩角の處は矢張り一目宛飛ばして編んで行くのであります、而して次の段からは二重七寶編を七段編み、終りの段は飾松編みして全部の終了となります。

3）車　掛

器具材料準備

編　糸　カタン糸三十番手二繰。

布　地　キャラコ長さ三尺五寸、幅一尺。

編　針　金屬製角柄付レース用鈎針。

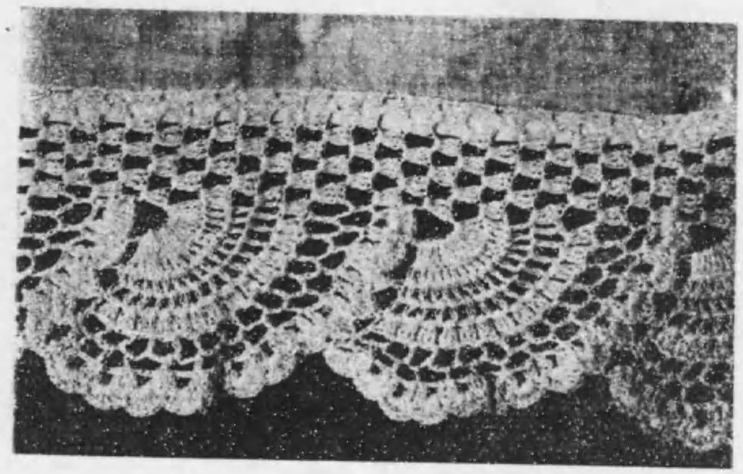
應用編法

帽子編。長編。

車掛の拵方

先づ布地キャラコを必要の大いさのものに切て置いて、それに編物を編み付けて車掛に應用したもので御座います、キャラコの中央の或る部分を寫眞の様に切り拔い

飾編

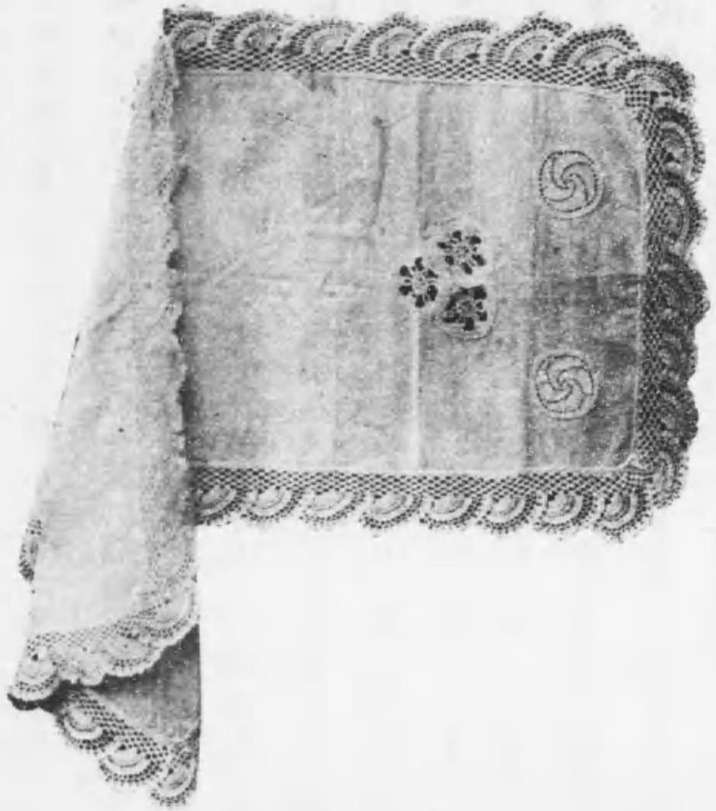


て其處へ編物を應用して表側から其の切り拔いた部分へ當て嵌めて、其の編んだものゝ全緣をミシンで一廻り縫ひ付けて置く、斯樣に致しますと存外氣のきいた面白いものが出來ますから遣つて御覽なさい、寫眞を御覽になると大体の方法が御解りになるだらうと思ひます。

全緣の飾編——緣飾の編方は鎖を二十二拵へて其鈎針を後に返して又鎖を三つ拵へて次の目から長編を三目編み入れ、鎖を二つ編んで下の目を三つ飛ばして四つ目に長編を編み入れます、かくして編んで參りますと其長編

三つの處が四つ出來ますから斯樣に三度致しまして、又鎖を五つ拵へて端の目に帽子編で止めます。二段目は其の鈎針を後に返して五つの鎖の中に長編を十五編み入れ、鎖を二つ拵へて次の三つの長編の間の處へ又長編を三つ編み入れます、それから終りまでの内に順々に長編三つの處を四ヶ所編み入れて參ります。三段目に移りましたら鎖を三つ拵へて初めから長編三つの處を五つ拵へる、而して次からは前段の長編の目に長編を一つ宛編み入れると云ふ樣にして端迄編んで行く。四段目は鎖を三つ拵へて前段の長編の目に長編一つと鎖一つを編み入れて次から又長編三つ鎖二つと云ふ樣に編んで參ります。五段目も鎖三つを拵へて長編三つ鎖二つと編んで參りまして長編斗りの處になりましたら、鎖二つ長編一つと云ふ樣にして端迄編んで參ります。六段目は鎖三つ拵へて以前の鎖二つ長編一つの處を全部長編三つ鎖一つと云ふ樣にして編む、而して次は長編三つ鎖二つと云ふ樣に前段の塲合同樣に編めばよろしい。七段目は又鎖三つ拵へて長編を三つ鎖二つと云ふ樣に編んで四ヶ所

車　掛



終了の寫眞

出來ましたら、鎖五つ長編一つ鎖五つと云ふ樣にして端迄編んで參ります。八段目は七段目と同樣です。九段目は鎖を三つ拵へて長編三つ鎖二つの處を編みましたら次からは長編一つ鎖二

つと云ふ樣にして下の段の鎖の目を二つ飛ばして端迄編んで行く。十段目は其の鎖三つの處へ長編を五つ編み入れて次の二つの鎖の處へは帽子編で止めます、この方法を繰り返し〳〵て前段の長編三つ鎖二つの處は同じく長編三つ鎖三つと云ふ樣に編んで參りますと一つの編方を終るのであります、次からは同樣のものを編むのでありますが其の外側の端に編み出ましたら、寫眞を御覽になりまして前の長編五つの上に止めて後に返るので御座います、この方法を繰り返し繰返して一丈編んだら角の處へは少しの襞(ひだ)を付ける樣にしてキャラコの布地に寫眞を參照して叮嚀にミシンで縫ひ付けて置くので御座います。

31　卓　子　掛（其一）

器具材料準備

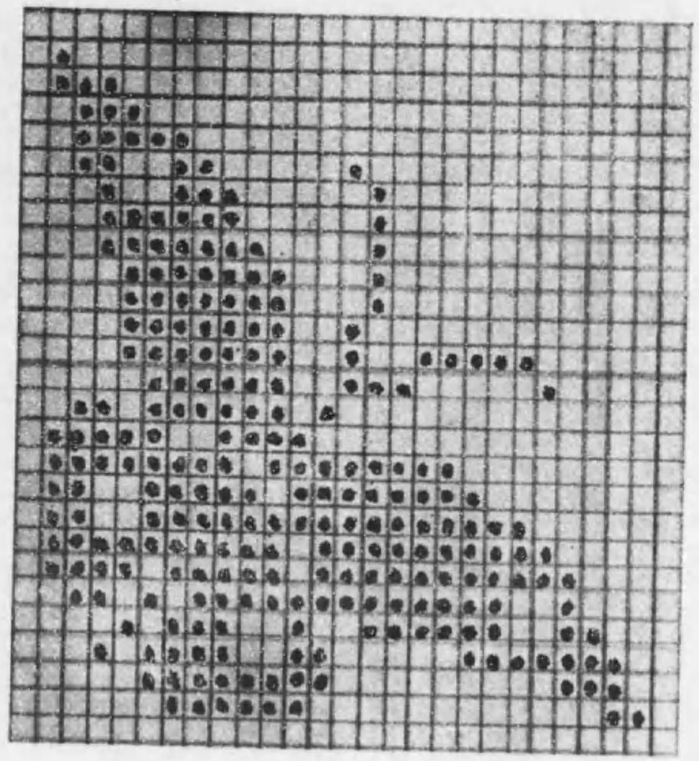
編　糸　カタン糸三十番手一繰。
布　地　キャラコ布地一尺七寸角。
編　針　金屬製角柄付レース用鈎針。

應用編法　帽子編。長編。

卓子掛　其一の拵方

先づ鎖を九十八拵へて初めから八つ目に長編を一つ編み入れ、又鎖を二つ拵へて下の鎖を二つ飛ばして長編を一つ編む、この方法を繰り返して編むと其角目が三十一出來る筈であります、この編方を三段編んで四段目から角の模様を編むことに致します、此段には蝶の模様を編み込んで御座いますが、これは諸姉の御自由に御任せするとして、同じ模様のものを四つ拵へるのであります、此の場合竪と横とを注意しながら編んで下さい、それが出來ましたら寫眞を參照して四角の布地を切り取り、

編込圖案（其一）

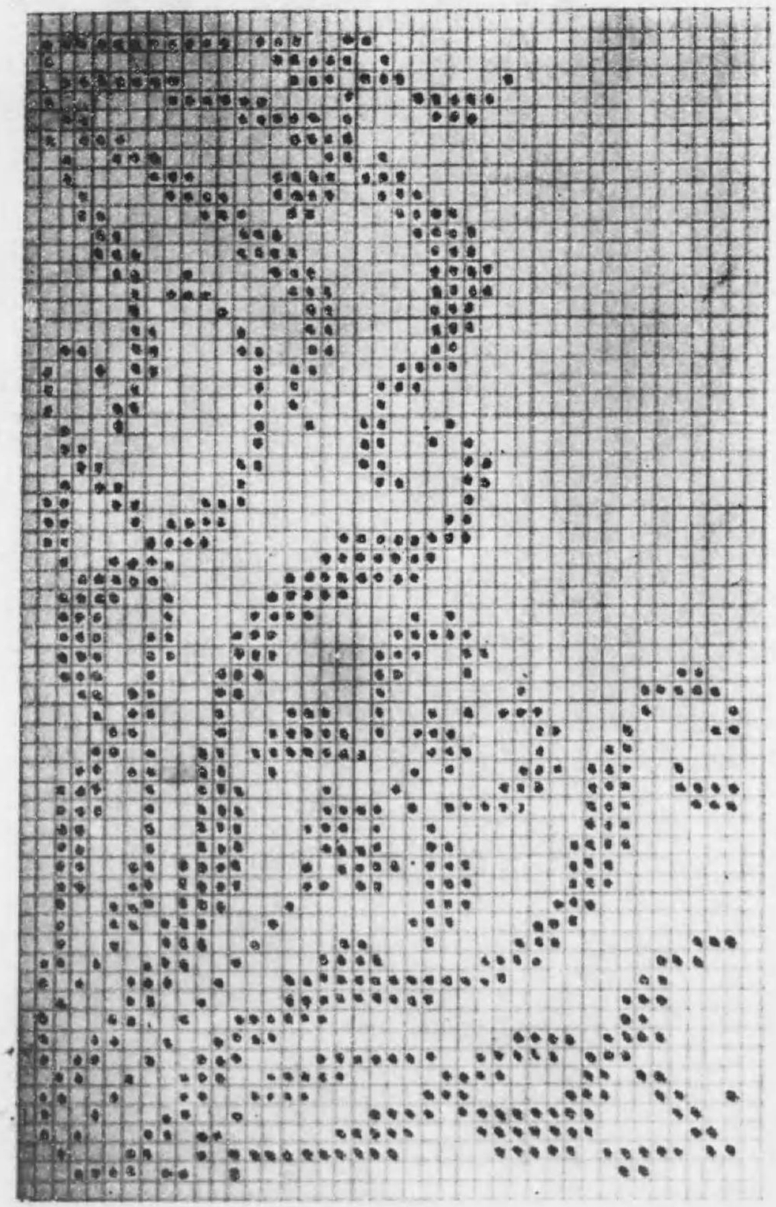


其部分に模様の編み込みをしたものを綴じ付けて置く、かくして四角共綴じ付けましたら其外周りの飾編を致します。

外周の飾編——布地の處も編み目の處も鎖を二つ拵へて長編を一つ編むと云ふ方法で一段編み廻つて一旦糸を切る。

次は別に鎖を三十拵へてそれを罠にして帽子編で止

め、眞の糸を入れながら其罠の中に帽子編を四十二編み入れ、次の段も帽子編で一段編み。三段目は鎖を六つ拵へて前段の帽子編の目を二つ飛ばして長編を一つ編み入れ、鎖を三つ拵へて又下の目を二つ飛ばして長編を一つ編み入れる、かくして其長編が十四になりましたら鎖を三つ拵へて以前の六つの鎖の下から三つ目に帽子編で止め、次は前段の鎖三つの處に長編を四つ編み入れて鎖を三つ拵へて其長編の上部に帽子編で止め、又長編を三つ編み入れて次の長編の上に帽子編で止め、又次の鎖の中に長編を四つ編んで鎖を三つ拵へて前同樣にして編んで行く、かくして其長編七つの處が七つ出來ましたら、次は長編が四つ出來まして鎖を二つ拵へて前から編んで居るものゝ方へ帽子編で止め、又鎖を二つ拵へて其長編の上に止めて又長編を三つ編んで次の長編の上に帽子編で止めます、かくして次へ〳〵と三つ編み付けて次からは又前同樣に其十四の處を編みましたら糸を切る、これで一ヶ所の出來上りとなるのであります。



編込圖案（其一）

卓子掛（其一）

終了の寫眞

次からは上述の方法によつて御編みになればよろしいのですが、寫眞を參照して前の花形と今編む花形との間も三つ編み續けます、この方法によつて全周を編み廻つたら終了となるので御座います。

32　卓子掛（其二）

器具材料準備

編糸　カタン糸三十六番手一繰。

編針　金屬製角柄付レース用鈎針。

應用編法　帽子編。長編。

卓子掛（其二）の拵方

鎖を五つ拵へてそれを丸くして其の罠の中に長編を二十四編み入れる、之れが一段目となるのであります。二段目は鎖を三つ拵へて其の元の目に長編を四つ編み入れ、前段の四つ目に又長編を四つ鎖一つ長編を四つと云ふ順に編み入れて又次も同様に致します、かくするときは同様のものが一段目の周圍に六ヶ所出來ることゝなる。

三段目は前段の長編四つと四つの間の鎖の處に同じく長編八つの中央に鎖一つのものを編み入れ、次は鎖を三つ拵へて又次の長編八つの中の鎖の處に同様に長編を入れて編み行きます、かくして順次にこの段を編み終つたら、四段目は鎖を三つ拵へて次の處に長編を四つ編み、鎖三つして前段の鎖三つの中の目に長編を一つ編み入れ、鎖を三つ拵へて次の長編の間の處に同じく長編八つの中に鎖を一つ入れたるものを編み入れる、五段目も前段同様鎖を三つ拵へて三つの鎖の處に針を通して長編を一つ入れ、鎖を三つ拵へて次の鎖の處に長編を入れる、他は前段同様に編む。

六段目も同様の方法にて編み上り、鎖三つ拵へて長編を一つ編み入れて又鎖を三つ拵へて長編の上部を抜かずに五つ編んでそれを一時に抜き出し、又鎖を三つ拵へて長編を一つ編んで次に長編を八つ編む、之れを繰り返し〳〵て此段を終ります。

七段目も同様に編み上つて鎖を三つ拵へて長編を一つ編み、又鎖を三つ拵へて長編の上部を抜かずに五つ編んでそれを一時に抜き出して鎖を三つ拵へ、又長編の上部

を抜かずに五つ編んでそれを一時に抜き出し、又鎖を三つ拵へて長編を一つして鎖を三つ拵へて次の八つの長編の間に一つの鎖編をするものを編む、この方法を繰り返して編み進むのであります。

八段目も同様の方法にて編んで行つて鎖を三つ拵へて長編を一つ又鎖を三つ拵へて長編の上部丈を抜かずに五つ編み、之れを一時に抜き出して鎖を三つ拵へて前段の鎖三つの處に長編を三目編み入れ又鎖を三つ拵へて長編の上部丈を抜かずに五つ編み、之れを一時に抜き出して鎖を三編拵へて長編を一つ鎖三つ次は長編八つの中に鎖を一つ編む、これをくり返し編んで此の段の終となる。九段目、十段目、十一段目と順次同様に編み進んで長編の上部を抜かずに編んである中央の處に長編を三つ編んだ處を兩側で三つ宛増しますと、九段目は九つ、十段目は十五、十一段目は二十一目となります、之れて一應糸を切つて置く。大きな卓子に用ゆる場合は以上の方法によつて編んだものを多數に拵へてそれを綴り合して大きく致します、茲に

は見本用として七つ編み作つて之れを綴じ合す方法を説明致します。

以上編み拵へましたものを二枚表合せに持つて一角丈を帽子編で編み合せて一旦糸を切る。次は二角を編み合せ、次も同様にして順次に綴じ合せ行きて一つのもの、六角を全部綴じ合せ、他の接續の部分をも悉く綴じ終つたら、其の周圍に飾編をして終了のであります、其飾編は次の様にすればよろしい。

飾り編——新たに長編八つの處に糸を付けて同じく長編を八つ編み入れて鎖を五つ拵へ、前の長編の上部を拔かずに編みましたものゝ處に鈎針を通して帽子編で止め、又鎖を五つ編んで長編の目を五つ飛ばして帽子編で止め、二十一の長編の中央の目に長編を九つ編み入れて五つ目に止め、又鎖を五つ拵へて長編の上部を拔かずに編みましたものゝ處に止め、又鎖を五つ拵へて前段の長編八つの處に同じく長編を八つ編み入れて次の段に移る。

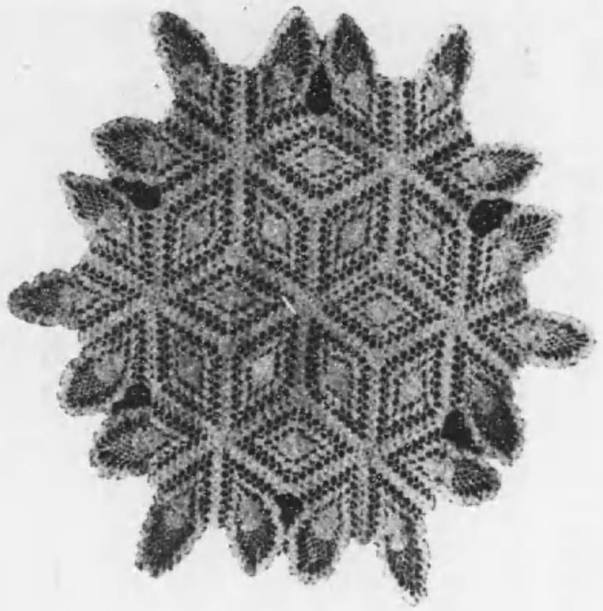
二段目は返し持つて同じく長編を八つ編み入れ、鎖を五つ拵へて前段の五つの鎖

の處に止めて次は前段の長編の目に二つ宛長編を編み入れて止め、鎖を五つ拵へて又長編を八つ編む。

三段目は同じく返し持つて長編みを八つ編み入れ、鎖を五つ拵へて前段の長編の端より三つ目に帽子編で止め、鎖を四つ拵へて三つ目に止め、又鎖を四つ拵へて三つ目に止め、其の上部を終つたら鎖を五つ拵へて長編を八つ編む。

四段目も又前段同様で御座いますが其中央の四つの鎖の處が

卓子掛（其二）



終了の寫眞

一段に一つ宛減りまして終りの鎖が一つになりましたなれば、長編八つの中央一つの鎖を編む處を向ふ側の八つの中央の目の處に帽子編で止めて又今編んで行く方の殘り四つを編んで終りとなります。

以上の方法によりまして順次に其周圍に同樣の飾り編を編み付けましたら一つの卓子掛の終了となります。

33　卓子掛（其三）

器具材料準備

編糸　カタン糸三十番手一繰。

編針　金屬製角柄付レース用鈎針。

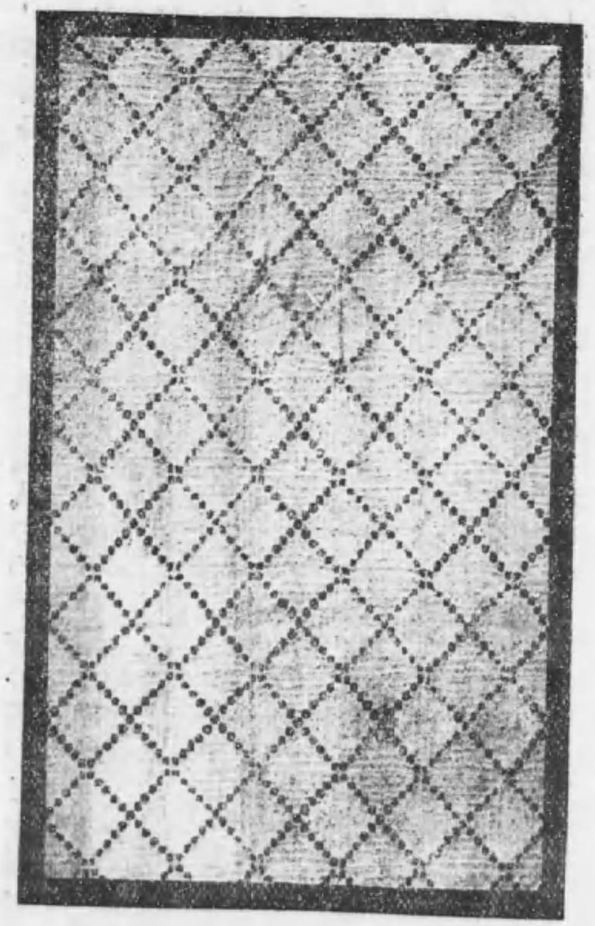
應用編法

帽子編。長編。

卓子掛（其三）の拵方

卓子掛（其三）

鎖を十六拵へて丸くして又鎖三つを拵へ、次の目から長編を三目編んで又鎖八つを拵へて又長編を四つ編む、又鎖を八つ拵へて次の目より長編を四つ編む、かくして編んで行くと長編四つ鎖八つの所が四ヶ所出來ることゝなります。二段目は鎖三つ拵へて前段の長編の上部を長編とし、鎖を八つ拵へた處へ四目長編を入れて又鎖を八つ拵へて長編を其の殘りたる四つの



終了の寫眞

目と、長編四つの上部と、次の鎖八つの手前の四つとを編む、即ち十二の長編を編んで又鎖八つを拵へる、かくして二段目を編んで參ります。三段目は長編の處が二十となり其の次の段は二十八となる、かく一段毎に八目宛の増目をして編んで行く。この方法で七段編んだら糸を切る。

同様のものを二十五作つて置いて鎖と鎖との處を表合せにして角の處に糸を付け、帽子編で綴り合す必要の數を繋ぎ合せたら其周圍に任意の飾編を付けたらよろしい、繋ぎ合す數の多い少いによつて大小が出來て種々の敷物となり又卓子掛等にも應用されるのであります、茲には其一部分の説明に止めてありますが、全部の終了つたものは隨分美事なものとなるので御座います。

34　卓子掛（其四）

器具材料準備

編糸　カタン糸三十番手一繰。

布地　キャラコ三尺二寸角。

編針　金屬製角柄付レース用鈎針。

應用編法

帽子編。長編。文字編。

卓子掛（其四）の拵方

初めに布地の四方を一寸斗り宛折り曲げてミシンを掛げて置く、それから寫眞の様に四つの隅々の位置に直徑九寸斗りを丸形に切り拔いて下さい、而して次の方法によつて編んだものを其部分へ編み付けて、寫眞の様に致しますと却々氣のきいた面白い卓子掛が出來るのであります。

それでは其編方を申述べませう、先づ鎖を五つ拵へて丸くして其中に帽子編を二十一編み入れる。二段目は長編で其二十一の目が二十八になる様に増して編み。三

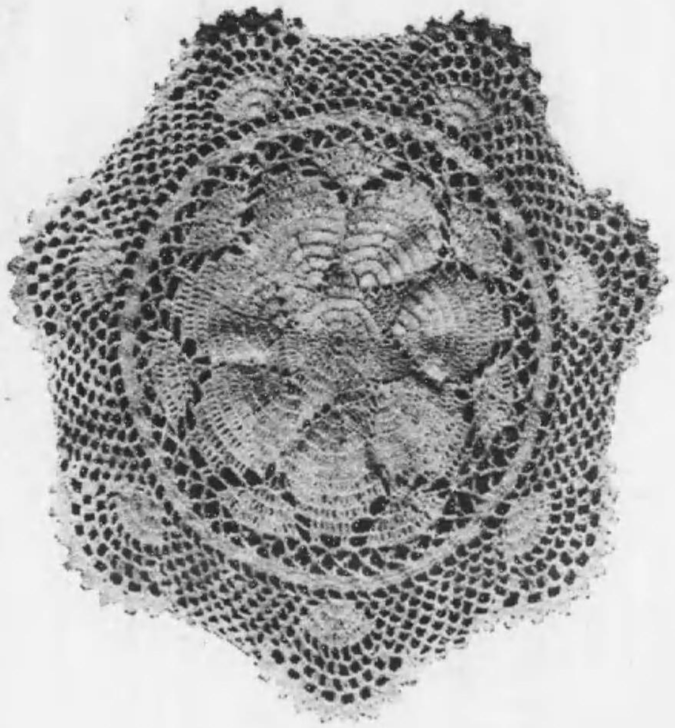
段目は四十二目になる樣に增して編む。四段目は五十六目になる樣に編み。五段目からはそれを七つに割り當てゝ初めから九目編みましたら鎖を二つ拵へて九つ目の同じ目に又長編を一つ編み入れ、其長編が九つになりましたら又鎖を二つ拵へると云ふ樣にしてこの段を編んで行きます。六段目は其八つの間の鎖の處に長編を三つ編み入れて鎖を一つ拵へ、又長編を三つ編み入れて次の目を一つ飛ばして前段の九目を七目として編みます、これで一ヶ所が出來ましたから同じ方法を繰り返してこれと同じ編方の處が七ヶ所出來ましたら。七段目は前段の長編三つの上を兩端の目は長編を二つ宛編み入れ、中央は一つ編み入れて五目として鎖を一つ拵へ、又次を前同樣に長編を五つ編み入れて、次の前段の長編七つの處は又兩端を一目飛ばして五目にして一ヶ所の終りとなる、この方法を繰り返して一回編み廻ります。

八段目は其五つの上を兩端で增目して七目として鎖を二つ拵へ、次も又長編七つを編み入れて次の五目の處は兩端で一つ飛ばして三目とする。九段目は前段の七つ

の處を十一目として鎖を一つ拵へ、次も十一の長編を編み入れて次の三目の處は一つの長編にして編み廻る。十段目は前段の十一の上と次の十一の上を編みつゞけまして、二十二目にして鎖を二つ拵へて次に移ります。十一段は其二十二目の兩端を一目宛增して二十四目にして鎖を三つ拵へて次に移り編む。十二段目は又其二十四目を兩端で二目宛減して二十目として鎖を三つ拵へて前段の三つの鎖の中の目に長編を一つ編み入れ、鎖を一つ拵へて又同じ目に長編を一つ編み入れて又鎖を三つ編む。十三段目は長編を二十目の處を兩端で二目宛減して十六目長編を編み入れ、次は鎖を三つ拵へて前段の長編一つ鎖一つ又長編一つとの三目の上を六目長編をして次に編み移る。十四段目は前段の十六目を同じく兩端で二目宛飛ばして長編を十二目編み入れ、鎖を三つ拵へて前段の六つの目に長編を十二編み入れてこの段を編み終る。

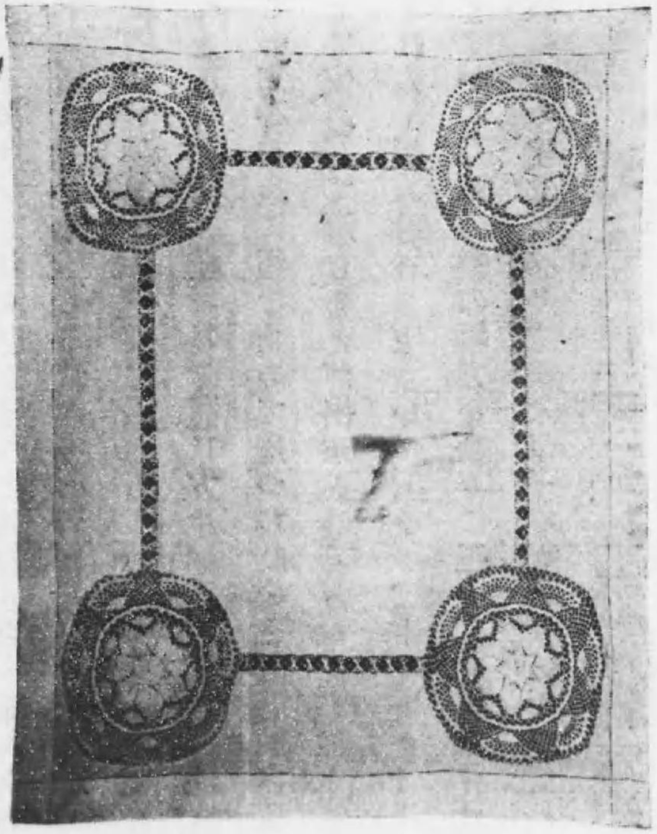
十五段目は前段の初めの十二目の處を兩端は同じく二目飛ばして次に長編を二目

部分編



編み入れ、中央を四目飛ばして次に二目長編を編み入れ、鎖を三つ拵へて前段の十二の長編を十六に増して編んで此段を終る。十六段目は全部文字編で一段編み廻り。十七段目からは帽子編斗りで二段編み廻る。十八段目は鎖三つ拵へて下の目を二つ飛ばして長編を一つ編み入れ、又鎖を三つ拵へて前同様に長編を一つ編む、この編方を一段して十九段目からは又其全部を七つに分けて外飾を編む。

卓子掛（其四）



外飾——この編方は至極簡單なものでありますから寫眞を參照して編んで頂きませう、この編方は八段で編み終りになります。寫眞參照。

それから以前切り抜いて置いた布地の部分に糸を付け、鎖を三つ拵へて其布地を二分置き位に帽子編で止めて一段編み廻り

終了の寫眞

其切り口を卷き込む様に致しますと奇麗になります、而して次の段からは今編んだものを其處へ持ち添へて布地の方へつなぎ合せて置く、この方法はこれ迄に幾度となく説明して御座います様に鎖を三つ拵へて向ふに止め、又三つの鎖を拵へて手前の方へ止めると云ふ様にして同じ方法を繰り返して編んで行つて出來上りとなります、この塲合布地に鎖で止めて廻つた時の目數と編み綴るものゝ端の目數とを調べて置くと安心して編むことが出來るのであります、この方法で四隅の切り拔いた部分へそれ〴〵編み付けて下さい、バテン、ドロンウォークなどゝは違つた趣きが御座いますから、此の種の編方を種々に工夫して編み付けたら面白いと思ひます、それに雜作なく出來て存外立派な卓子掛が終了るでは御座いませんか。

35　卓子掛（其五）

器具材料準備

編糸　カタン糸三十番手一繰。
布地　キャラコ一尺四寸角。
編針　金屬製角柄付レース用鈎針。

應用編法　捻結梗編。

卓子掛（其五）の拵方

前例を參照して捻結梗編を四十拵へて其周圍を四分して丸みを損ぜぬ樣氣を付けて繋ぎ合せて參ります、此塲合其周圍の目數は六十四になつて居りますから一所を十六目宛して其内の十目丈を繋ぎ合せ、殘りの六つは間の繋ぎに殘して置く、凡て巴つなぎの塲合を應用して編んで頂けばよろしいのであります。

全部のつなぎ合が出來ましたら、其中央に布地を持ち添へ寫眞を參照して叮嚀に編み綴つて置くので御座います。

卓子掛（其五）

終了の寫眞

36　クッション、カバー

器具材料準備

編糸　カタン糸三十番手二繰。

布地　キャラコ布地。

編針　金屬製角柄付レース用鈎針。

應用編法　帽子編。長編。

クッション、カバーの拵方

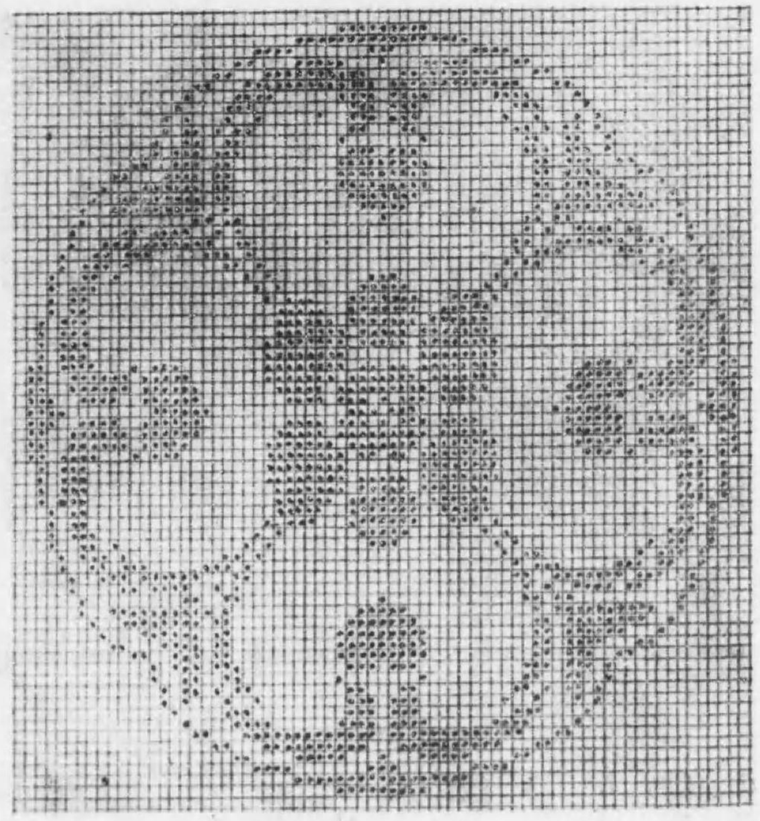
鎖を二百九十拵へて初めの二段は長編を編み。三段目からは兩端を十目宛長編にして中は鎖二つ長編一つと云ふ樣に編む。四段も三段目と同樣に編んで下さい。五段目からは圖案通りの模樣を編ふ込んで參ります、而して其終りは編み初めと同じ方法を逆に編んで一旦糸を切る。それから其周圍を鎖二つ長編一つで一段編み廻り、

編込圖案（其一）

角の處は同じ目に長編を二度編み入て置く。

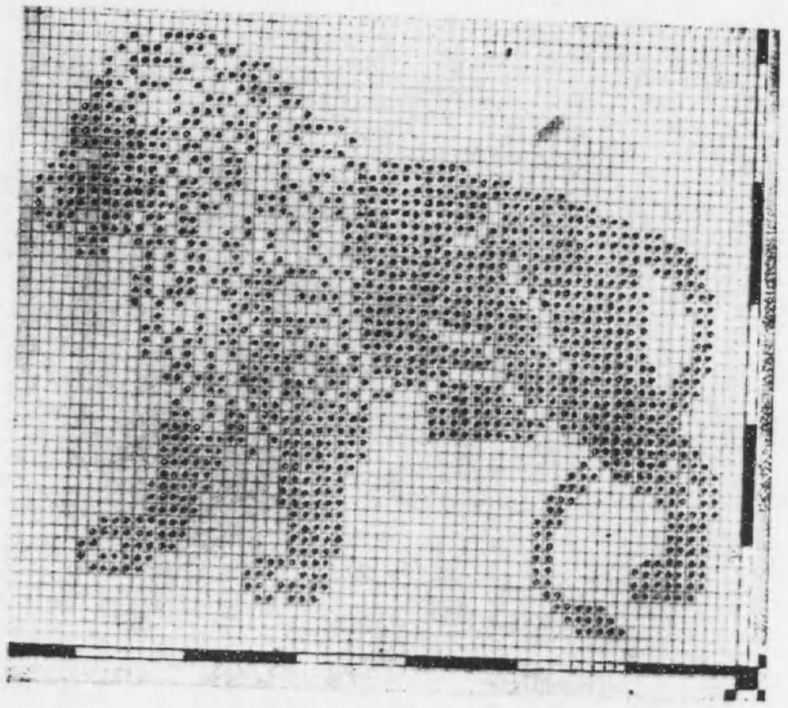
次の段からは帽子編を三段編み四段目は外飾を編む其方法は鎖を二十拵て其針を後に返し、前段の帽子編の目を十二飛ばして次の目に帽子編を一つ編み、又次の目に帽子編を一つして又針を返し其二十の鎖の中に帽子編を

編込圖案（其二）



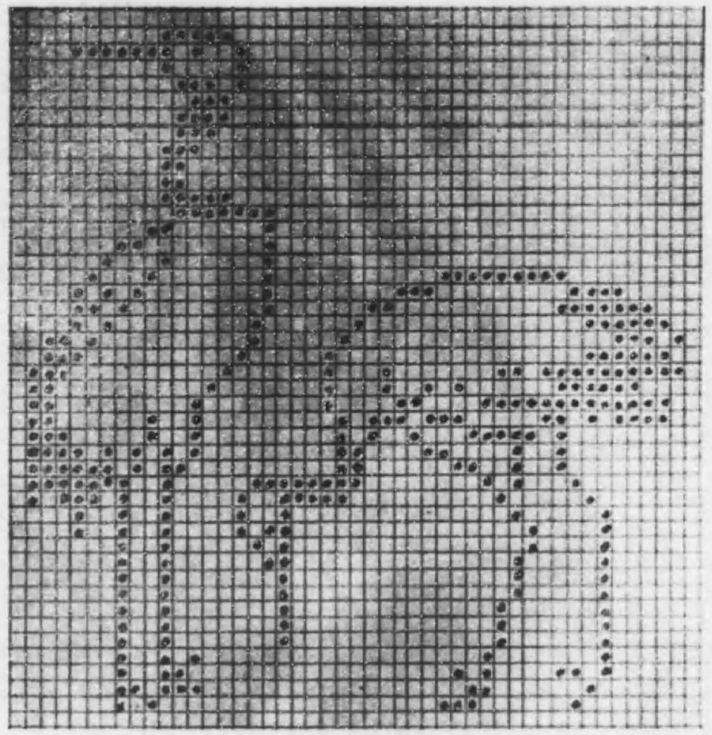
二十二目編み入れ、鎖を三つ拵へて次の目から帽子編を三つして鎖を三つ拵へて前の二十二の帽子編の處を一目飛ばして次の目に長編を一つ編み入れ、又鎖を三つ拵へて下の目を一つ飛ばして長編を一目編む、この方法を繰り返して其長編が十出來ましたら、鎖を三つ

編込圖案（其三）



拵へて前段の帽子編の目を三つ飛ばして帽子編で止め又針を返して其三つの鎖の中に長編を七つ編み入れ、次の三つの鎖の中に帽子編で止め又次の三つの鎖の中に長編を七つ編み入れる、かくして編んで參りますと其長編七つの處が六つ出來て一つの終りとなります、この方法を繰り返し〳〵編んで出來上るので御座います、終了ましたら本章の初めに申ました樣に鏝仕上を

編込圖案（其四）

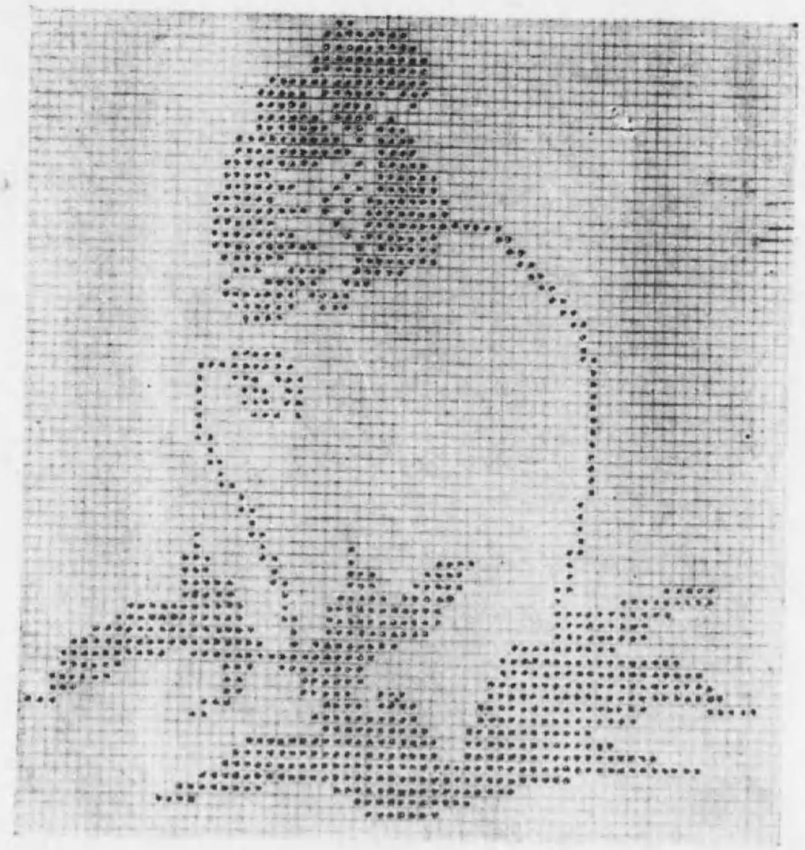


して置きます。

裏側布地の裁方——只今鏝仕上を致しました外飾りの内にあります帽子編の處に布地を合せて其縫ひ代を五分見て横を裁ち、竪は縫代の外に一寸餘分に裁つ、而して一方の端から二寸位の處を切り、それを三つ折りにして其處に鳩目の下部の方を取り付ける。

殘りの一方も同樣にして

編込圖案（其五）



此方には鳩目の上部の方を前に付けた下部の方と合ふ樣にして付け、夫を外飾りの內の帽子編の處に鳩目の處丈けを重ねて置いて全部を縫ひ付けると終了となるので御座いますから、寫眞を參照されまして手際よく拵へて下さいませ。

ーバカ.ンヨシツク

終了の寫眞

37　櫻花繋窓掛

器具材料準備

編　糸　カタン糸三十番手一繰。

編　針　金屬製角柄付レース用鈎針。

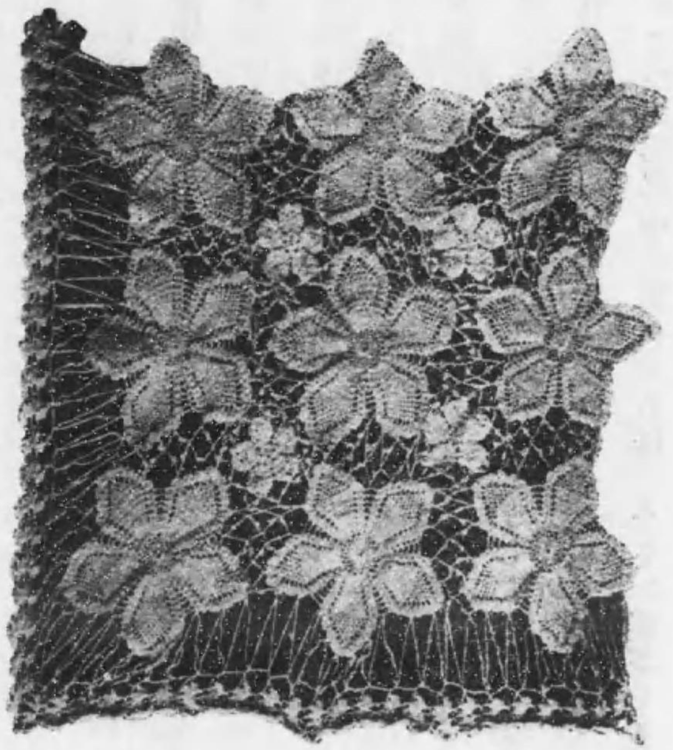
應用編法　帽子編。長編。

櫻花繋窓掛の拵方

初めは鎖を五つ拵へて丸くして編み初めの目に帽子編で止め、次は鎖を三つ拵へて其罠の中へ長編を二十編み入れ、次は帽子編を一段して次は鎖二つ帽子編一つ又鎖二つと云ふ樣にして次の目に帽子編を編む、この順序に編んで行つてこの段を編み終るのであります。次の段に移つて初めに鎖三つ拵へて前同樣に編んで行つて次は鎖を拵へて次の鎖の中に長編二つ鎖一つ長編二つと云ふ樣に編み入れ、次は鎖一つ

拵へて次の鎖の中に長編を七つ編み入れ、又鎖を一つ拵へて次の鎖の中に長編を二つと鎖一つ又長編を二つ編んで、次の鎖を一つ飛ばして同樣に編む、かくするときは花瓣樣の基礎が五ヶ所出來ることゝなります。二段目も前同樣長編四つの中の一つの鎖の處に以前同樣長編四つの中に鎖を一つ拵へ、又鎖を一つ拵へて以前の七つの長編の兩端の目に二目宛入れて他は一つ宛長編を編んでこの段を終る。この編方で初めより七段編んで行つて其の花瓣樣の處を一つ宛編む、長編を四つの中に鎖一つとある處より鎖を三つ拵へて中の長編の上部の目の初めの目に止め、又鎖を三つ拵へて長編の目を一つ飛ばして次の目に止める、かくして順次端に編み至りましたら又鈎針を後に返して前同樣に編んで參ります、かくするときは漸次に其鎖三つの處が一つ宛減つて行つて減滅なりましたら櫻花の一瓣の終了となります。同樣にして五ヶ所を編み廻つて下さい。同樣のものを必要の數に應じて編んで置く、この方法によつて寫眞中に點在せる極く小さい櫻花を編んでそれを繋ぎ合せて窓掛其他の

38　小窓掛（長三尺　幅一尺五寸）



櫻花繋窓掛の一部

終了の寫眞

ものに應用するので御座います。

花形の繋ぎ合せは寫眞を參照して其の大小の櫻花と繋ぎ合せた後に周圍の鎖編を編み付け、最後に飾編で其の廻りを編み廻つて終了となるのであります。

器具材料準備

編　糸　カタン糸三十番手二繰。

編　針　〔cc號ヘヤーピン、クロッシェー。〕〔金屬製角柄付レース用鈎針。〕

應用編法　ヘヤーピン一本掛編。帽子編。長編。

小窓掛の拵方

初めはcc號のヘヤーピンを應用して一本掛の方法で七十二段のものを編んで、それを第二輯中に述べて置いた菊花ショールの場合と同樣の方法で丸くして止めます、かくして同じものを五十拵へて置く。而して其内側になる方は三つの輪に一時に針を通して帽子編を一つ拵へ、又次も三つの輪に針を通して帽子編を一つ編むと云ふ樣にして一回編み廻る。二回目は其帽子編を三つ目に一目飛ばして編み、三回目も又同樣に編んで糸をよく止めて切る。

外側を編む——これからは其外側を編むのでありますが、其方法に輪の一つに針を通して帽子編を一つ編み、又次の輪に針を通して帽子編をすると云ふ様にして一回編み廻つて止め、次は鎖を五つ拵へて前段の帽子編を二つ飛ばして三つ目に帽子編で止め、又鎖を五つ拵へて前段の帽子編を二つ飛ばして三つ目に帽子編で止めて行く、かくして一回編み廻りますと其鎖五つの處が都合三十六出來るのであります、猶一段同様に編み廻つて糸を切る、これを第一の丸形として置く。第二の分からは其終りの一段の時に第一の丸形に編みつゞけるので御座いますが、其方法は第二輯中の菊花ショールの場合と同様ですから參照して御編み下さい、而して其目數が三十六あると致しましたらその四分の一は九つで御座いますから、其五つ丈けを編みつないで四つ分は編まずに殘して置きます、それから菊花ショールの場合の様に一二三四と順々に編みつないで參るのでありますが、其數は初めに記して置きました通り其幅が一尺五六寸ですから幅には五つつなぎ合せばよろしい、又竪には十つな

ぎ合すと長さ三尺と云ふ寸法を得られます、兎も角も以上述べた方法によつて其窓の寸法に合して大きくも小さくも自由であることを會得して貰いたいと思ひます。

中の繋ぎ法——丸形と丸形との中間の繋ぎ方をするには先づ鎖を五つ拵へて丸く罠にして止め、鎖を三つ拵へて其罠の中に長編を十六編み入れて初めの鎖の上の目に止め、次は鎖を五つ拵へて前段の長編の次の目に帽子編で止め、又鎖を五つ拵へて次の目に帽子編で止める、この方法を繰り返し〳〵て一段編み廻ります。

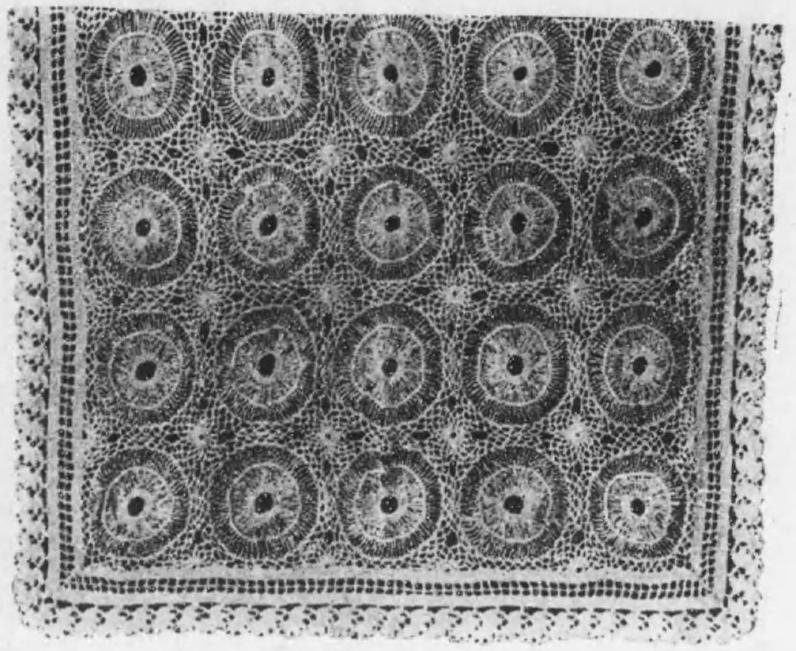
二段目は鎖を三つ拵へて前に繋いである第一の丸形の鎖五つの處の殘つて居る處に、菊花ショールの場合と同じ様に裏側から針を通して帽子編で止め、又鎖を三つ拵へて繋ぎの丸形の次の鎖五つの中に針を通して止めます、この方法は既に諸姉が御存知の事であるとは思ひますが、つなぎ編をする時は向ふ側はいつも裏側から針を通して編む様にするので御座います、かくして其四つの丸形の四つ宛殘つて居るものゝ十六と、つなぎの丸形の十六との全部の繋ぎ合が出來ましたら一旦糸を切つ

て下さい。而して其周圍は中のつなぎの半分でよろしいのであります、これで中の繋ぎの編み終りとなりましたから次は外廻りを編むことに致しませう。

外廻り——外廻を編むときは四方共鎖を五つ拵へて前の五つの鎖の處に止めると云ふ樣にして編んで行つて、角の處は同じ處に二度止める樣に致します、而して一回編み廻りましたら其五つの鎖の中に帽子編を五つ宛編み入れて行つて、角の處は同じく鎖を五つ拵へて次に編み移ります、この方法を繰り返して一回編み廻つたら、次の段から三廻は其儘で一目に一つ宛の帽子編で編み、次は鎖を三つ拵へて前段の帽子編を三目飛ばして四つ目に長編を一つ編み入れ、又鎖を三つ拵へて前段の帽子編の目を三目飛ばして次へ長編を一つ編み入れると云ふ樣にする、この方法を繰り返して二段編み、次の段からは又帽子編で四段編んで糸を切る。

外飾編——外飾を編む、それは窓掛の上になる方はかんを付ける丈ですから兩横と下部の三方丈けを編むので御座います、先づ鎖を十三拵へて横の左側の上部に帽

小窓掛



終了の寫眞

子編で付け、又鎖を五つ拵へて其十三の鎖を止めた處から四つ目に帽子編で止め、又鎖を五つ拵へて其鎖の五つ目に帽子編で止め、又鎖を五つ拵へて其十三の鎖の終りの目に止めます。

二段目は持ち替へて鎖を五つ拵へて前段の五つの鎖の三つある中の處に針を通して長編の上部を拔かぬものを五つ編んで一時に拔き出し、又鎖

を五つ拵へて前同様にして五つ出來たら、前に糸を付けた處から帽子編の目を七つ飛ばして帽子編で止め、又持ち替へて鎖を五つ拵へて前の長編の間の五つの鎖の處に針を通して帽子編で止め、又鎖を五つ拵へて次の長編の間の處へ止める、次も同様にして其鎖五つの處が三つになりましたら持ち替へて二段目同様にして編んで行きます、この方法を繰り返し〳〵て下部の角の處になりましたら、角は三ケ所斗り三目置きに付けて置きます。それから下部と殘りの横の全部を編み終つたら終了となるので御座います。

39　巴繋ぎ鏡掛（出來上り丈三尺二寸　幅一尺三寸）

器具材料準備

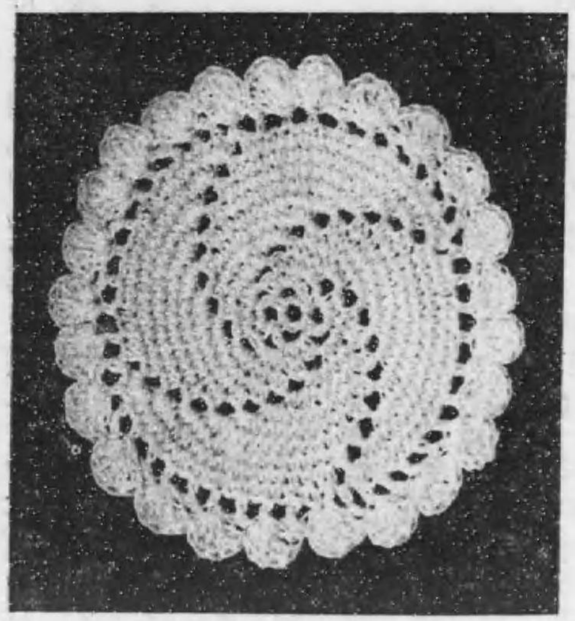
編糸　カタン糸三十番手三繰。

編針　金屬製角柄付レース用鈎針。

應用編法　帽子編。長編。

巴繋ぎ鏡掛の拵方

巴

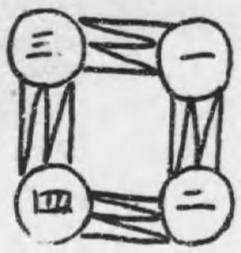


巴——前例を參照して寫眞の様な巴を七十拵へて置いて次の方法によつて其繋合せを致します。

繋ぎ合せ法——巴の周圍に長編を三つ編み入れたものが二十四出來て居りますから、それを四つに割つて六つ宛にして其の一ケ所の尖つた先の處に糸を付け、鎖を五つ拵へて元の目に帽子編で一度止め、又鎖を三

つ拵へて第二の巴を持ち添へて、其角の處へ裏側から針を通して帽子編で止め、鎖を五つ拵へて初めの目に帽子編で止め、又鎖を三つ拵へて初めの巴の方へ同様の方法で編み付けます、かくして四ヶ所を編み付けましたら一旦糸を切つて置く、而して其次から六ヶ所飛ばした處へ次の巴を持ち添へて以前の様に四ヶ所編み付けて糸を切る、この方法で次は今六ヶ殘した處の兩端を一つ宛飛ばして中の四ヶ所を繋ぎます、それから次の分は圖に示して置きました様に三の分と四の分とを編み付けましたら糸を切るのであります。

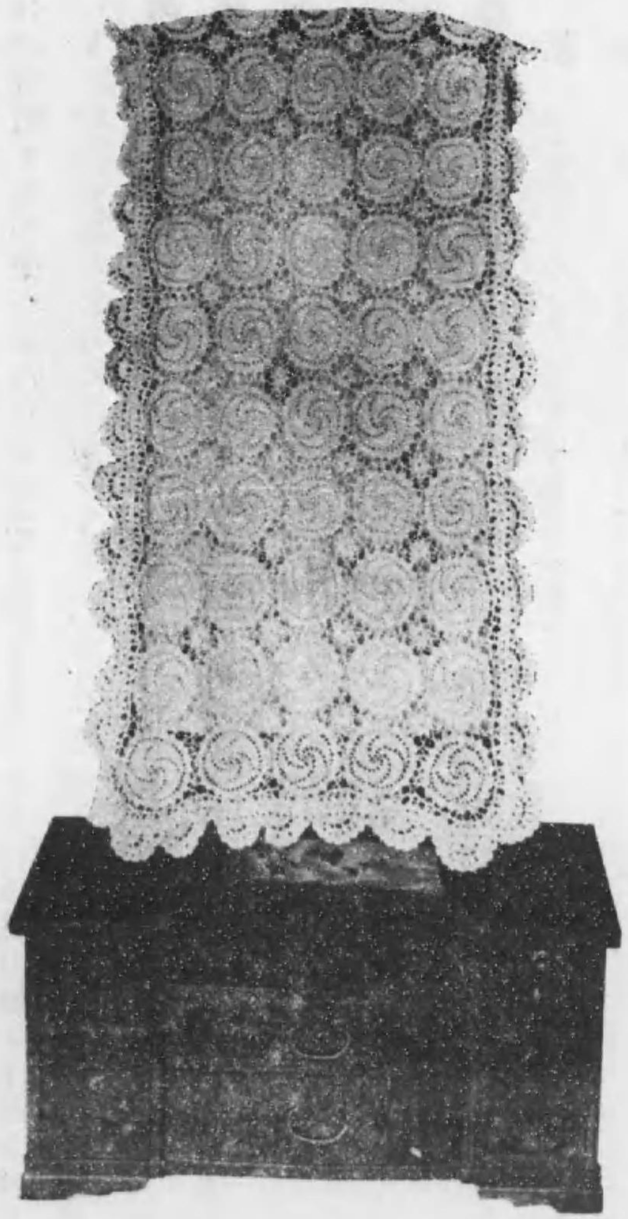
繋ぎ合せ圖



以上の方法によつて横に五つ竪に十四繋なぎ合せたら、新たに鎖を五つ拵へて丸くして其中に長編の上部を拔かずに四つ編んでそれを一時に拔き出し、鎖を八つ拵へて五つ下の目に帽子編を致します、それから又鎖を三つ拵へて繋ぎ合せた巴の一の間の一ヶ所殘つて居る處に帽子編で止め、又鎖を八つ拵へて同じ五つ下の目に帽

子編で止め、又鎖を三つ拵へて繋ぎ花の罠の中に長編の上部を拔かずに四つ編んで又前同様に致します、而して此度は巴の繋ぎの鎖の横へ編み付けるのであります、

巴繋ぎ鏡掛



終了の寫眞

又それから繋ぎ花の中へ編み返ると云ふ様にする、かくして其長編の上部を抜かずに編むものが八つ編めたら糸を切って置く、これで一ヶ所の巴と巴との間の繋ぎ合せが出來ました、斯様に致しまして全部を編み付けるので御座います。

飾編——飾編には車輪形の飾を全縁に編み付けて下さい、それが出來上りましたら一應水洗して薄く糊を付けて家庭用アイロンで仕上げして置きます。

40　襟　飾　（其一）

器具材料準備

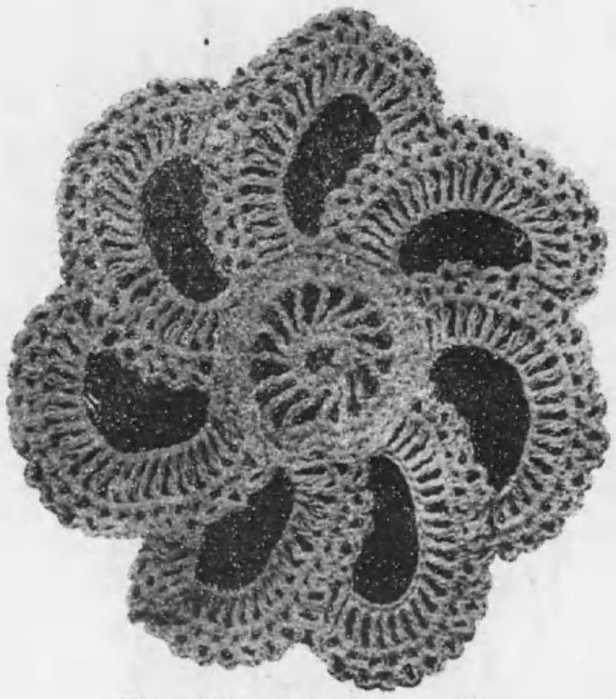
編　糸　カタン糸三十番手一繰。

編　針　金屬製角柄付レース用鈎針。

應用編法　**襟飾**（其一）の拵方　**襟子編。長編。**

花形——鎖を七つ拵へて丸くして其の罠の中に帽子編を十四編み入れる。二段目は鎖を七つ拵へて前段の帽子編の目に二重搦の長編を編み入れ、鎖を三つ拵へて次の目に二重搦の長編を編む、かくして此段を編み終り、次は其三つの鎖の中に帽子編を三つ編み入れ又次の鎖の處に帽子編を三つ編み入れると云ふ様にする。次の段は一目に一つ宛の帽子編で一回編み廻りて次は瓣様のものを編む、先づ鎖を二十四拵へて其鎖の處から四つ目に長編を一つ編み入れ、又鎖を一つ拵へて次の目に長編を一つ編む、斯様にし

花形



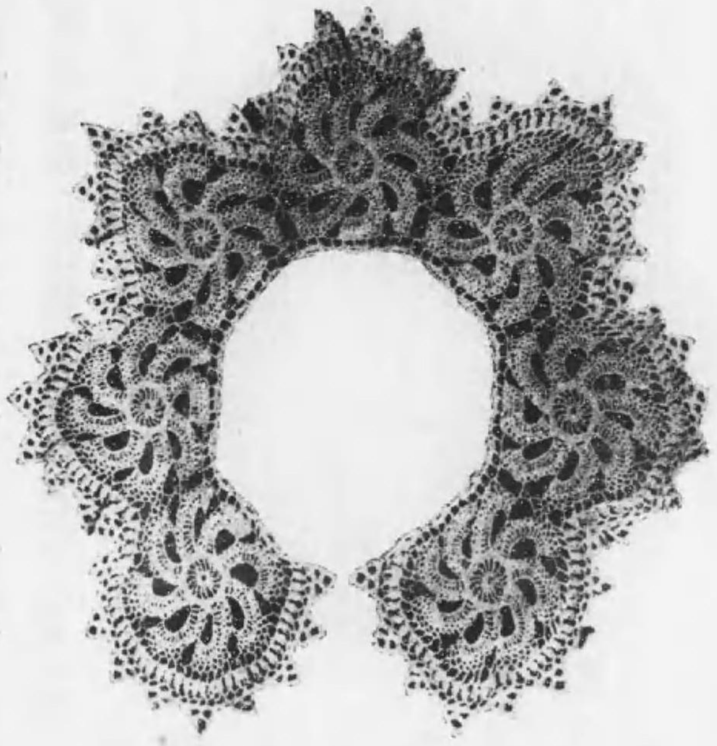
終

の

寫

眞

襟飾（其一）



終了の寫眞

て次の三つ目に帽子編で止め、それを持ち替へて鎖を三つ拵へて次の長編の間の鎖の處に帽子編で止め、又鎖を三つ拵へて前同様の編方で端迄編んで行きましたら、持ち替へて次に止める、この方法を繰り返して下迄編んで行つて次の三つ目に止めると云ふ様に致しま

すと一つの瓣様のものが出來ます、次も同様ですが此度は鎖二十一拵へて前の瓣様のものゝ下から三つ目に帽子編で止め、又鎖を四つ拵へて前同様に長編を編む。これで前の二十四の鎖を拵へた場合と同様になりますから、次からは前の方法を繰り返して編んで行つて終りの七つ目の瓣の編み終りの時は、編み初めの瓣に編み付けて寫眞の様な花形になるのであります、かくして一つの花形が出來ましたら同じ方法で七つの花形をお編み下さい。

繋ぎ合せ——繋ぎ合せの方法はこれ迄に其例が幾つも御座いますから終了の寫眞を參照して編み繋いで頂きませう。

飾編——飾編はいろ／＼御座いますが茲には前述袖口（其三）三山飾を應用して置きました、然しこの飾編に限つた譯ではありませんから、諸姉で御好みのものを撰んで御作りになる様に願ひます。

41　襟　飾（其二）

器具材料準備

編　糸　カタン糸三十番手半繰。

編　針　金屬製角柄付レース用鈎針。

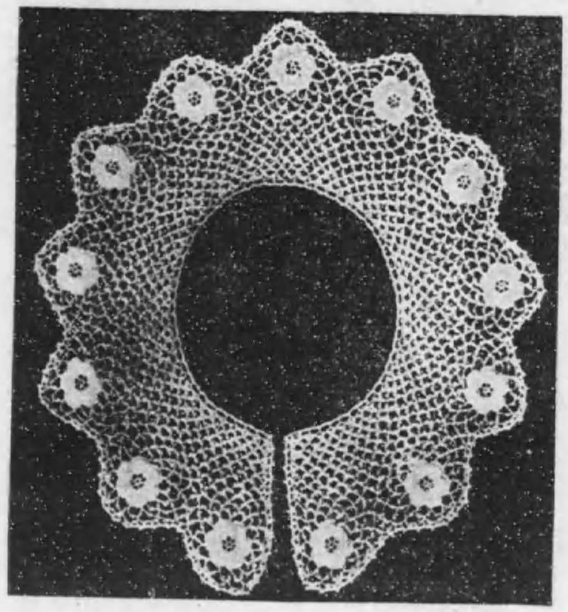
應用編法

帽子編。長編。

襟飾（其二）の拵方

鑞を五つ拵へて丸くして初めの目に帽子編で止め、次は鑞五つを拵へて長編を今の罠の中に一つ編み入れて又鑞を二つ拵へて長編を一つ編む、かくして順次に長編を五つ編み入れましたら初めの五つの鑞の三つ目の處に帽子編で止める、次は其の長編と長編との間の鑞の處に長編を五つ編み入れて帽子編で長編の目に止めて其次も同樣に致します、かくする時は其周圍に六つの花瓣樣のものが出來て參ります、次

襟　飾（其二）



終了の寫眞

は鑞四つを拵へて今編んだ帽子編の處を横に鈎針を通して止め、又鑞を四つ拵へて同樣にして一廻りする、次は以前編んだ鑞の中へ長編を七つ編み入れる、この方法は四回外になる度毎に長編の數を二つ增して編んで行く、而して鑞五つを拵へて二つ目の鑞の目に鈎針を通して帽子編で止め、又鑞を五つ拵へて長編の目を四つ飛ばして帽子編で止める、其次も同樣長編の目を四つ飛して止め、次も又同樣の鑞を拵へて次の花瓣樣の長編の處に飛ばして前同樣に編む、即ち一つの瓣樣のものゝ處に鑞を二度止めることになります、

之れを一回致しましたら又其の上を同様に一回編み廻つてから糸を切る。次も同様のものを作つて編み合すのでありますが、其の方法は先づ鎖を三つ拵へて以前の花の鎖の中に鈎針を通して帽子編を一つする、又鎖を三つ拵へて他の一つの花の鎖の中へ帽子編で止める、かくして二ヶ所を止めたら糸を切つて置く、同様の方法で十三ヶの花を綴り合せて下さい。

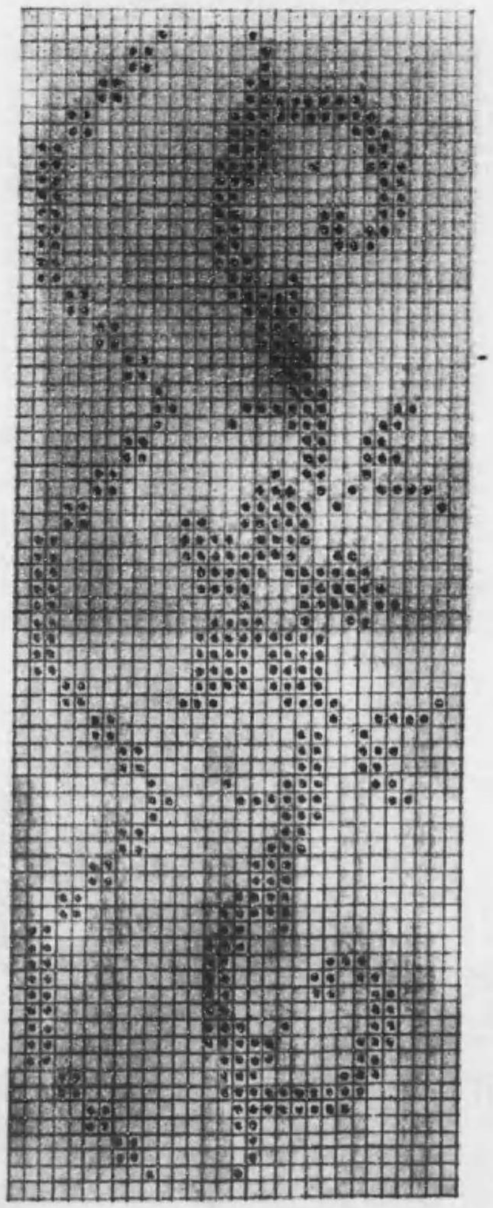
次は以前編んだ鎖編で其の花の内側になつて居る方を全部編み廻ること十五回、次は襟付けの方は鎖を四つ長編一つと云ふ様に交るがわるに一回編み、次は其の全部の周圍を帽子編で編み廻り、五つ目毎に鎖を三つ拵へて帽子編の上部の横になつて居る糸に止めて編む様にする、かくして全部を編み廻りますと終了となるので御座います。

42　服下　着

（十五才用　六才出来上り二尺四五寸）

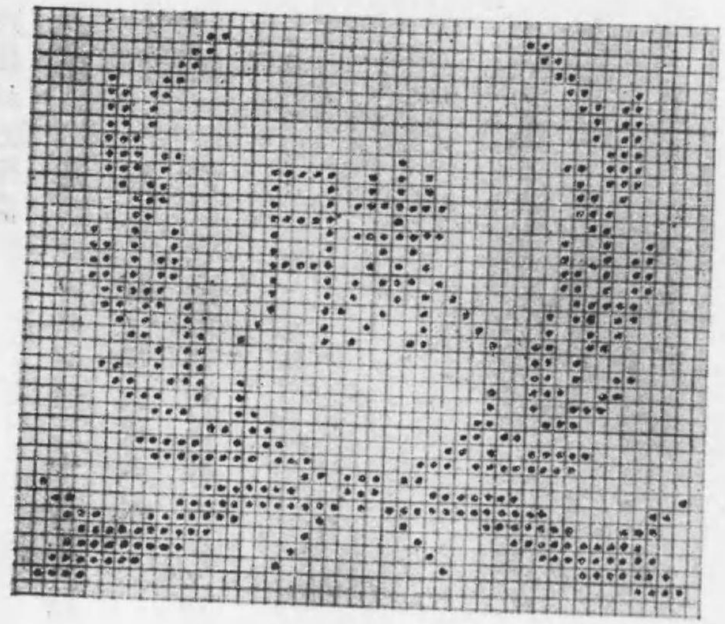
器具材料準備

編　糸　カタン糸三十番手二綟。
布　地　富士絹大幅八尺。
編　針　金屬製角柄付レース用鈎針。



詰込圖案（其一）

編込圖案（其二）



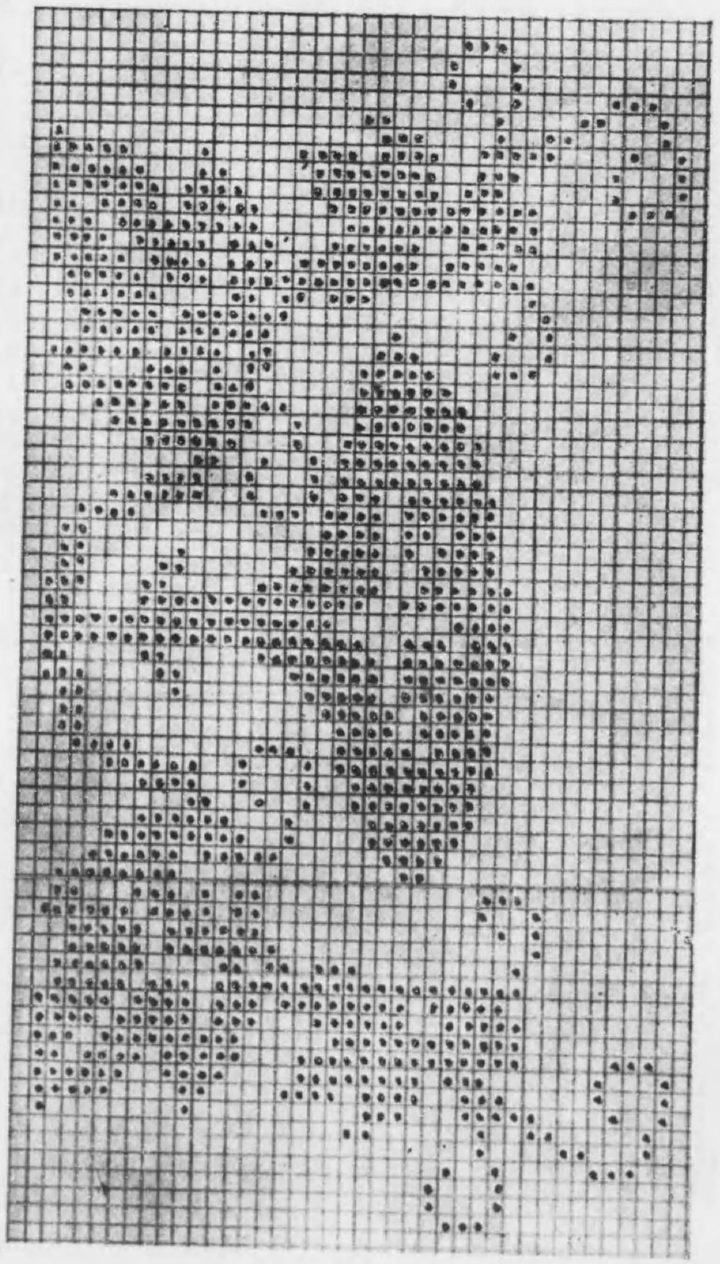
應用編法

長編。花菱編。

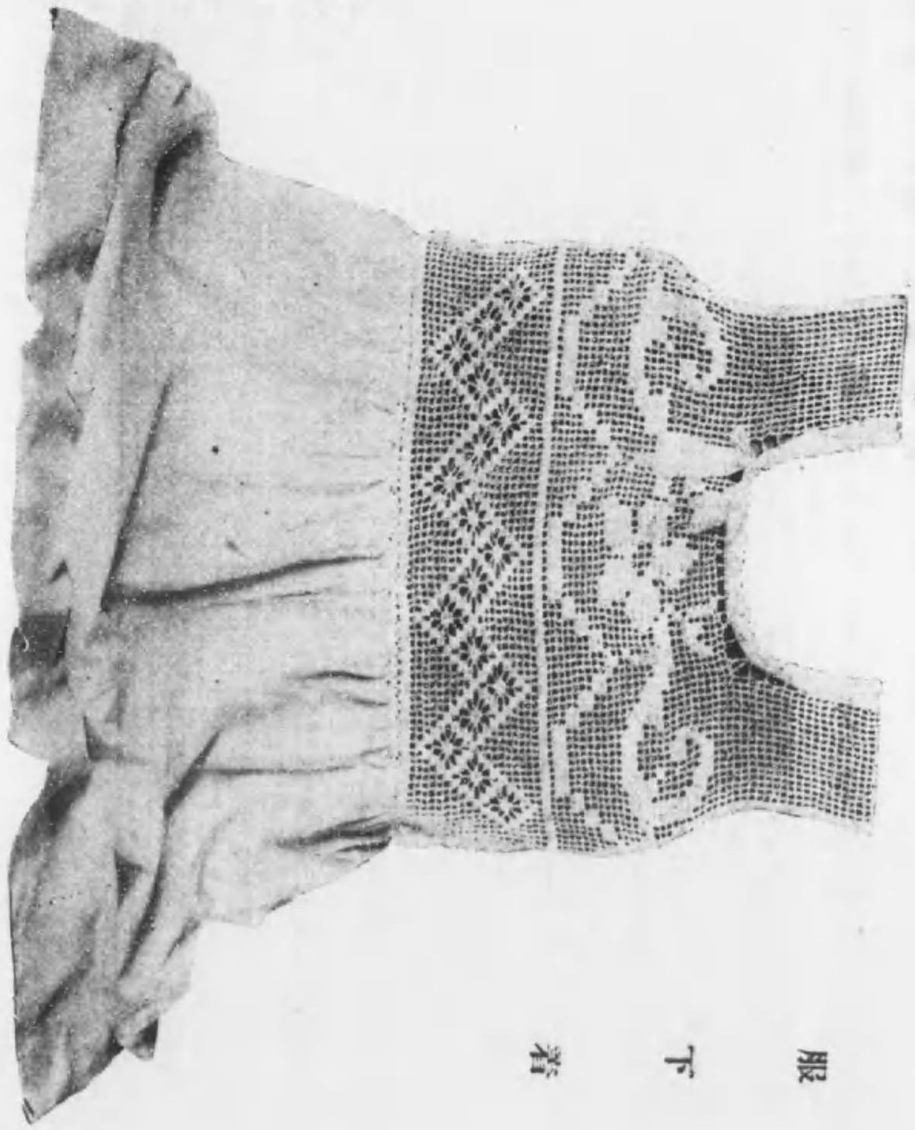
服下着の拵方

鎖を二百六十八拵へて長編を一段編み二段目は鎖二つ拵へて下の目を二つ飛ばして長編を一つ編み、又鎖を二つ拵へて長編を一つ編むと云ふ樣に致しますと全部で七十六の　目が出來ます。三段目からは寫眞を參照して花菱編を編んで其模樣の處を編み終りましたら、一段は鎖二つ長編一つで編み次の段は長編を一段する

其次の段では圖案を參照して編み込んで頂きませう、而して襟明をして後身に編み



編込圖案（其三）



服下着の寫眞

移ります。

襟明——襟明をする場合は全幅の四分の二弱を襟明の部分として明けて置く、而して片前身丈を編んで行つて五十位編んだら一應其の針を休めて置きまして、殘りの片前身の方を同様の方法で編んで後身の上で前身で明けた丈け鎖を編み、前の片身に編み移つて後身も同様の模様を編んで參ります、而して前と同じ寸法になりましたら止めるのでありますが、其の着る人の寸法に應じて布地の上部の周圍に編み付ける様に致しますと下着の終了となるのであります。

大正拾五年拾月拾日印刷
大正拾五年拾月拾五日發行

不許複製

（編物講習錄第六輯）
定價 金壹圓五拾錢

著者 寺西綠子
名古屋市西區泥江町三丁目六番地
發行者 寺西薫
名古屋市東區武平町一丁目七番地
印刷者 林鐵藏

發行所 日本編物研究會出版部
名古屋市西區泥江町三丁目六番地
電話 西局一九五四番
振替口座名古屋一〇八二二番

販賣所 創生社書店
東京市牛込區津久戸町九番地
名古屋市東區伊勢町三丁目六番地
電話 名古屋東六二九八番
振替口座名古屋一四九一番

改正 日本編物研究會規則

第一條　本會は專ら編物に關する事項を講究し斯術の普及發達を促進せしめ家庭副業的手藝の特長を發揮するを目的とす

第二條　本會は日本編物研究會と名付け本部を名古屋市西區泥江町三丁目六番地寺西宅に置く。但し必要に應して各地に支部を設くることあるべし

第三條　本會は必要の時期に於て會員の製作品を募り又は其應募品展覽會及びバザーを開くことあるべし

第四條　本會は編物講習錄を發行して會員の研究資料に供す

第五條　講習錄は第一輯より第六輯迄とし全輯購讀の方へは修業證書を授く

第六條　講習錄に掲載したるものは教材見本として本會に備へ付け會員の閲覽に供す

第七條　本會は毎月若くは隔月に會報を發行す。但し會員の異動、質疑應答、會員の優良作品を發表すべし

第八條　會費は一ヶ年金壹圓二十錢とす。但し入會の際申込書と同時に入會金一圓を納むるものとす

第九條

一購讀會員

但し講習錄の全部を購讀するものを云ふ

一實習會員

但し實習會に入會するものを云ふ

一修身會員

但し講習錄の全輯を購讀したるもの若くは實習會を修了したるものを云ふ

第一〇條　實習會の規定は別に之を定む

第一一條　會員の身上に異動を生したるときは其都度本會へ届出られたし

大正拾五年七月改正

名古屋市西區泥江町三丁目六番地
日本編物研究會
電話　西局一九五四番
振替口座名古屋一〇八二二番

終